

平成 1 5 年度

独立行政法人国立美術館  
国立西洋美術館

事業報告書

# 目 次

国立西洋美術館の概要	3
業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	4
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	7
1. 収集保管	7
(1) 美術作品の収集(購入・寄贈・寄託)の状況	7
(2) 保管の状況	8
(3) 修理の状況	10
2. 公衆への観覧	12
(1) 展覧会の状況	12
「常設展」	14
「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」(小企画展)	16
「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」(自主企画展)	19
「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」(共催展)	23
「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」(共催展)	27
(2) 貸与・特別観覧の状況	29
3. 調査研究	30
4. 教育普及	32
(1) - 1 資料の収集及び公開(閲覧)の状況	35
(1) - 2 広報活動の状況	36
(1) - 3 デジタル化の状況	38
(2) - 1 児童生徒を対象とした事業	40
(2) - 2 講演会等の事業	45
(3) - 1 研修の取組	51
(3) - 2 大学等との連携	54
(3) - 3 ボランティアの活用状況	55
(4) 渉外活動	56
5. その他の入館者サービス	58

## 国立西洋美術館の概要

### 1. 目的

国立西洋美術館は、昭和34年、東京・上野公園の一角にフランス政府から寄贈返還された松方コレクション（印象派の絵画及びロダンの彫刻を中心とするフランス美術コレクション）を基礎に、西洋美術作品を広く公衆の観覧に供するとともに、西洋美術を専門的に調査研究する機関として開館した。

以来、これまで広く西洋美術全般を対象とする唯一の国立の美術館として、展覧事業のみならず、西洋美術に関する作品及び資料の収集・保存、調査研究、教育普及、出版物の刊行等を行ってきた。

当館の目的は、現在及び将来においてできる限り効果的に西洋美術に関する作品を収集・展示し、また、幅広い人々に作品への理解と楽しみが深められるように、コレクションを管理かつ拡充・保存し、美術情報、美術館教育の調査研究に努めることである。

### 2. 土地・建物

建面積	3,714m <sup>2</sup>
延べ面積	17,547m <sup>2</sup>
展示面積	4,420m <sup>2</sup>
収蔵庫面積	1,097m <sup>2</sup>

3. 定員 31人

4. 予算 1,243,020,089円

## 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 中期計画

- 1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。
  - (1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化
  - (2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進
  - (3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進
  - (4) 外部委託の推進
  - (5) 事務のOA化の推進
  - (6) 連絡システムの構築等による事務の効率化
  - (7) 積極的な一般競争入札を導入
- 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

### 実績

1. 業務の一元化  
情報公開制度の共通的な事務を一元化し、本部を中心とした文書管理システムを稼働。  
人事記録、給与計算等の人事事務、収入、支出、保険契約等の会計事務及び保険請求事務等共済事務で各館で行っていたもののうち、共通的な事務を本部へ一元化し、業務の効率化を図っている。
2. 省エネルギー等（リサイクル）
  - (1) 光熱水量  
節水、節電による省エネルギーについての文書を職員へ回覧し、意識の啓発を図るなどして省エネルギー化に努めた。  
ア. 電気 使用量 5,386,322kwh（平成14年度比100.37%） 料金 76,600,148円（平成14年度比90.48%）  
イ. 水道 使用量 24,145 m<sup>3</sup>（平成14年度比95.77%） 料金 18,462,660円（平成14年度比95.57%）  
ウ. ガス 使用量 677,691m<sup>3</sup>（平成14年度比95.21%） 料金 32,825,167円（平成14年度比98.42%）
  - (2) 廃棄物処理量  
コピー機の周辺に両面コピーを促す表示を行い廃棄物の減量化に努力している他、LANの活用によるペーパーレス化に努めた。  
ア. 一般廃棄物 20,960Kg（平成14年度比83.09%） 料金388,592円（平成14年度比83.09%）  
イ. 産業廃棄物 8,460Kg（平成14年度比81.70%） 料金217,842円（平成14年度比81.70%）
  - (3) その他 古紙の再利用によるリサイクル、OA機器のトナーカートリッジリサイクルによる再生使用
3. 施設の有効利用  
講堂等の積極的な利用を推進し、展覧会に関する講演会、レクチャーの他、外部団体の見学会、研修会、会議等への有効利用を図った。  
講堂等の利用率 25.7%（94日/365日）

講演会	11日
スライドトーク等	10日
ワークショップ	13日
音楽プログラム（コンサート）	1日
先生のための鑑賞プログラム	4日
シンポジウム	1日
研修会、見学会、内覧会、協議会等	54日
4. 外部委託  
平成15年度も下記の外部委託を行い、業務の効率化を図った。今後も各業務の見直しを行い、外部委託の可能なものの検討を進めていく。

- |          |                    |                  |
|----------|--------------------|------------------|
| 1 会場管理業務 | 7 広報物等発送業務         | 13 ホームページ改訂・更新業務 |
| 2 設備管理業務 | 8 美術館情報システム等運用支援業務 |                  |
| 3 清掃業務   | 9 収入金等集配金業務        |                  |
| 4 保安警備業務 | 10 レストラン業務         |                  |
| 5 機械警備業務 | 11 ミュージアムショップ業務    |                  |
| 6 情報案内業務 | 12 ホームページサーバ運用管理業務 |                  |

## 5. OA化

### 館内LANの整備状況

全館内にLANが整備されており、館内LANシステムの活用による職員への連絡業務効率化、ペーパーレス化を推進し、共通情報の各種ファイルを共有化することによって事務の省力化を図っている。また、収入、支出、財産管理等企業会計を効率的に処理するための会計情報システムを導入し、各種伝票作成時に帳簿類へ自動記帳化を図るなど、事務処理の正確・迅速化及び、省力化が成されるよう努めている。

紙の使用量 584,000枚（平成14年度比80.34%）

- A 4 550,000枚
- A 3 13,500枚
- B 4 20,000枚
- B 5 500枚

## 6. 一般競争入札

代替性の無い、極めて貴重な文化遺産である西洋美術作品を所蔵しているため、保安上の観点から会場管理業務、清掃業務については指名競争入札を実施している。また、複数の業者から見積書を徴収するなどして市場調査を行い、コストに対する意識を高め、経費の削減に努めている。

一般競争入札件数 2件（総契約件数82件）

- 1 国立西洋美術館設備総合管理業務
- 2 国立西洋美術館設備総合保全業務

## 7. 評議員会，外部評価委員会

### (1) 評議員会

開催回数 1回

議事内容

第4回評議員会 平成15年6月9日(月) 12:30~15:00

- (1) 会長並びに副会長の選出について
- (2) 平成14年度事業報告について
- (3) 平成15年度事業計画について
- (4) その他

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度も、来館者サービスの向上を考慮しつつ業務運営の一元化、省エネルギー化を図り、平成14年度に引き続き事業全般において効率化の達成に努めた。

業務効率化では、館内諸会議の構成・機能を見直し、館の管理・事業運営の重要事項について審議する企画会議を設置するとともに、円滑な館運営を図るため、館員相互の意見交換、情報共有の場として運営協議会を設置した。また、鑑賞者へのサービス向上などに適切な対応が可能となるよう、国立西洋美術館構内整備検討委員会、開館時間及びそれに伴う勤務体制に関するワーキング・グループを設置し、業務機能の適正化及び、効率化を推進した。

施設利用の面では、外部団体への会議室や講堂の貸し付け、様々な鑑賞会・研修会、海外機関からの視察訪問等を受入れた他、地域の養護学校及び社会福祉団体の事業に協力し観覧料金の減免を行うなど、幅広い要望に応えるよう努め、施設の有効利用を推進した。

また、国立西洋美術館では職員の研修にも力を入れており、放送大学受講、英会話研修、普通救命講習、接遇研修等の各種研修に積極的に参加したほか、消防署の立会い、指導による消防訓練を年2回実施し、職員・看手を対象とした展覧会レクチャーを企画展ごとに行うなど、研修等を通じての理解促進、意識や取り組みへの改善に努力し、意識改革と資質の向上及び組織の活性化を図っている。

省エネルギーの数値においては平成14年度同様に効率化に努め、電気料金について効率的な契約内容となるよ

うに契約電力の見直しを行った結果、料金額について平成14年度比90.48%の効率化を達成した。また、文書の回覧化、共有化、一元化を推進したことで、紙の使用量について平成14年度比80.34%の効率化を達成した。

**【見直し又は改善を要する点】**

平成15年度は、契約電力を見直したことにより電気料金の節減を推進しているが、平成16年度においては下水道料金の見直しに着手し、経費額の節減を図る計画である。今後とも業務運営について見直し、改善に努め、効率化を引き続き維持していく必要がある。

**【計画を達成するために障害となっている点】**

入場者数や季節の変化によって、光熱水量が増減することとなり、それを正確に把握することは困難である。

# 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

## 1. 収集・保管

### (1) 美術作品の収集(購入・寄贈・寄託)の状況

#### 中期計画

(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。

#### (国立西洋美術館)

中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、松方コレクションを中心とした近代フランス美術の充実、近世ヨーロッパ絵画の充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行う。

(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。

#### 実績

1. 購入	123件		
2. 寄贈	1件		
3. 寄託	1件		
4. 陳列品購入費	予算額 275,695,000円	決算額 236,919,173円	

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度は絵画1点、版画122点を購入したほか、絵画の寄贈1点と寄託1点を受入れた。版画の点数が多かったのは、国内の個人コレクターの版画コレクションを一括購入したためであり、その整理、調査に相当の労力と時間が必要であったが、全体として見れば、比較的安い価格で多くの作品を購入できたものとする。絵画に関しては、購入候補として複数の作品の美術史的調査と価格をめぐる交渉を続けていたが、最終的に、当館の提案した価格と売り手の希望価格との間の差は埋まらず、購入は1点にとどまった。

今年購入した絵画は、国内のコレクターが所蔵していたジョルジュ・ド・ラ・トゥールの《聖トマス》である。これは、すでに平成14年度に寄託作品として当館で預かり、展示していた作品である。昨年の段階で、すでに購入候補としてあがっていたものであるが、作品帰属に慎重を期し、とりあえず、寄託作品として預かり、十分な時間をかけて調査をおこなったものである。寄託制度のひとつの運用方法として、今後ともこのような方法も積極的に考えていきたい。

##### 【見直し又は改善を要する点】

美術作品の価格は、専門家であってもわからない場合も多く、当館ではかなり慎重に価格を査定し、また、値引き交渉をおこなっている。しかしながら、平成15年度のように、売り手が承諾するだろうと見込んでいても、最終的に拒否される場合もある。欧米から距離のある当館にとってはやむを得ない部分もあるが、今後とも美術作品の市場に関する情報を集める不断の努力を継続していきたい。

#### \*添付資料

収集した美術作品件数の推移(事業実績統計表 p.1)

寄託された美術作品件数の推移(事業実績統計表 p.2)

購入・寄贈美術作品の一覧(事業実績統計表 p.68)

## (2) 保管の状況

### 中期計画

- (2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。
- (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。

### 実績

#### 1. 温湿度

展示会場

空調実施時間 24時間

作品への影響を最低限とするため、下記範囲の中で一定の温湿度となるよう努めている。

通 期： 温度20～22 湿度50～55%

(夏期のみ： 温度22～24 湿度50～55%)

夏期の展示会場内温度については、来館者へ配慮し温度を2度高く設定している。

収蔵庫

空調実施時間 24時間

温度20～22 湿度50～55%

#### 2. 照明

器具： 蛍光灯(紫外線カット)、スポットライト(紫外線・赤外線カットフィルター)

照度： 紙作品などの光に弱いもの 50ルクス以下

それ以外の作品 200ルクス以下

#### 3. 空気汚染

館内数十箇所において空気汚染調査を継続的に行っている。また、各種工事後には必ず空気測定を行い、発生した有害物質が無くなったことを確認後に作品を展示している。

#### 4. 防災

監視

火災総合受信盤及び監視カメラによる監視。(中央監視室・総合受付)

館全体には、非常放送設備による放送、非常通報設備による行政機関への連絡。

有事の際には館職員による自衛消防隊、委託業者による警備員、巡視等が観覧者の避難誘導を行う。

夜間は機械警備による監視である。

消火設備

展示室：予作動型スプリンクラー設備、屋内消火栓、消火器(強化液・粉末・水バケツ等)、排煙設備、非常放送設備

収蔵庫：二酸化炭素消火設備、ハロゲン化物消火設備

自動火災報知器

展示室・収蔵庫：煙感知器、熱感知器等

防災対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防災マニュアル(地震、火災、停電)の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行っている。

平成15年10月14日(火)及び平成16年3月8日(月)に、上野消防署の立会い、指導の下、消防・消火訓練、災害時作品搬出訓練、119番通報訓練を行った。訓練後、更に手際良く消火活動を行えるよう、館全体の消火器等の配置図を職員に周知し、防災意識を高めた。

#### 5. 防犯

警備(原則として昼間は有人警備、夜間は機械警備)

館全体：開館時間中は看視・警備員による巡回警備と立哨警備の併用及び、監視カメラによる警備。

絵画：美術館システムによる機械警備、収蔵庫は随時監視カメラと機械警備の併用。

保安対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防犯マニュアル(作品接触、破壊、盗難)の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行った。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

館内に収蔵されている期間の環境のみならず、館外に貸し出される作品が置かれる環境も管理・記録する目的で、温湿度データロガーを貸し出し作品に装着しているが、これは同時に借り入れ館に環境の適正な保全・管理を促すことにも良好に寄与していると考えられる。また、夏期の電力供給不足の懸念は、平成15年度は幸いにも全国的に多大な不足は起こらなかったものの、今後も起こりうることであり、平成15年度行った停電期間中における作品保全対応調査が後に生かされるであろう。さらに、災害が生じ、電力供給に支障が生じた場合にも、この調査を生かすことができ、リスク・マネジメントの観点からも重要であった。今後も必要に応じて改善を加えていきたい。

保存体制面では版画素描専用の収蔵庫の改装工事が完成し、既存の収蔵庫と併せて、より機能的な使用が可能になり、作品保管もより充実したものになっていくことが期待できる。また、平成15年度内に会期が開始した「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展」は、当館では前例が少ない立体作品中心の展覧会であり、これを効果的に展示できるように、これまでとは趣の異なる会場デザインと数多くの展示ケースを使用している。そのため、新規の造作がこれまでに例をみないほど数多く必要となり、その準備段階において作品に有害な化学物質が極力少ない材料を慎重に調査・選定し、展示計画に支障なく用意することができた。

平成15年度は、作品点検調書を9件作成した。これは、新規に購入及び寄贈を受けた絵画と、保存修復処置を実施中の工芸作品（タピスリー）についてのものである。

（平成15年度末作品点検調書作成件数：絵画作品354点、ブロンズ彫刻作品54点、工芸作品7点）

### 【見直し又は改善を要する点】

作品の保全管理のため、展示会場の温度、湿度、照明は諸条件に従って厳密に管理されている。しかし、この環境は来館者にとっては快適と感じられない場合もある。特に夏期の温度設定は来館者の反応を見つつ至った設定ではあるが、すべての来館者が満足できるとは限らない。そのため、今後も検討を重ねていくと同時に、来館者に理解を求める働きかけも行っていきたい。

版画素描専用の収蔵庫、閲覧室の改装工事においては、事前の調査不足が原因で、工事完了後の空気環境の清浄化に想定以上の時間が必要になった。今後は工事施工関係者らと協力して、事前調査をより慎重に行い、工事に当たれるよう体制を整えていきたい。その他、夜間の機械警備時に、館外に面した窓付近に設置されたセンサーに、上野公園内に生息している猫などが接近することにより、誤発報することが時折あるため、改善を検討したい。

また、保存カルテや修理データの4館共通企画によるデータベース化については、内容や構築の方法について他館との更なる協議が必要であり、現在のところ実現に至っていない。今後も検討を続ける必要がある。

### (3) 修理の状況

#### 中期計画

(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。

緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。

伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。

(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。

#### 実績

1. 絵画	5件
彫刻	7件
タピスリー	1件
額縁	4件
2. 修理経費	予算額 50,150,000円 決算額 48,113,527円

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

当館では保存修復室及び保存科学室を設置しており、このスタッフを中心として外部技術者等を活用し、収蔵作品の適切な保存、調査及び計画的修復を行っている。修理業者が保存修復を行う際には研究員の監督指導の下で行っており、作品の取り扱いについてより一層の注意を図り、保存修復処置の報告書を提出することとしている。

また、他機関との情報交換の円滑化、当館に寄せられる修復・保存上への協力要請への対応等、美術館等への修復保存に関する寄与を図っている。

研究会「博物館美術館等におけるIPM - 生物被害の回避、遮断、検出段階の方法論」へ出席

(平成15年12月17日(水) 独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所)

プロジェクト「臭化メチル燻蒸代替法に関する研究」 主任研究官 塚田全彦

玉信キューレーターズ(玉川大学通信教育学部学芸課程修了者による自主活動研究グループ) 学習会

(平成15年11月30日(日) 13:00~15:00 参加者:60名 国立西洋美術館講堂)

講師:主任研究官 河口 公夫

平成15年度は、平成10年度に行われたロダン作《地獄の門》免震化工事の報告書『《地獄の門》免震化と修復』を刊行することができた。本書は免震化の意義や問題点、工事のプロセスに及んで詳細を記録した報告書となった。また、作業を通じての調査も同時に行った。

保存修復処置としては、平成15年度はブルデル作「弓を引くヘラクレス」の免震化工事を行うことができた。今回のブルデル作品は企画展示館建設の前の状態に復旧することを目的として行われた。また、平成13年度に寄贈を受入れたピトルフィ彫刻作品及び、平成14年度に寄贈を受入れたタペストリーの保存修復処置に引き続き取り組んでおり、ピトルフィ作品については、調査を行った後に洗浄のための試行処置を施し、石の処置方法についてベルリン並びにパリでの調査を行った。タペストリーについては、平成14・15年度の展覧会開催時に、強度の観点から斜台にしか展示ができなかった《シャンプール城》の修復処置を行い、今後通常の展示ができるように、古い修復による損傷部の除去と補強、裏布の交換等を行った。

その他の事業として、平成15年度も引き続き保存修復事業の内容と実績の公開を図るため、新館1階の展示場内に資料展示のスペースを設けて、平成10・11年度に実施された彫刻の免震化と修復の工程を、写真、実物資料、模型、ビデオなどを使い、一般の入場者にも分かりやすく紹介する「前庭彫刻 免震化と修復」を実施しており、観覧者の好評を得ている。

##### 【見直し又は改善を要する点】

作品の修理については、所蔵品の点検調査を行い緊急性の高い作品を優先して保存修復処置を実施しているが、作品の取り扱いには細心の注意が求められるため、外注による処置をコンスタントに実行することが難しく、必ずしも計画どおりに進められない場合もある。今後の業務水準向上のためにも、外部の技術者及び専門家とど

のような連携・協力体制がとっていけるのか検討を続けていくことが課題であるとする。

\*添付資料

修理した美術作品の点数（事業実績統計表 p.1）

修理した美術作品の一覧（事業実績統計表 p.94）

## 2. 公衆への観覧

### (1) 展覧会の状況

#### 中期計画

- (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。
- (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。
- (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

#### (国立西洋美術館)

年3回程度

- (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
- (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。
- (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。  
なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。  
また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。
- (2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。
- (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

#### 実績(総括表)

1. 常設展  
展示替 1回(企画展開催に伴う一部作品の入替)  
版画展示 3回(「受難伝 - 国立西洋美術館所蔵のドイツ・ルネサンス版画による -」、「ジャック・カロの版画 - 17世紀フランス、イタリアの人々、宮廷、戦争 -」、「ファウストとハムレット：ドラクローワ - ロマン派石版画の魅力」)  
子どもから楽しめる美術展 1回(「ココロのマド - 絵のかたち」)(常設展と併設)  
小企画展 1回(「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー」)(常設展と併設)
2. 企画展等 3回(中期計画記載回数：年3回程度)  
自主企画展「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」  
共催展「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」  
共催展「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」
3. 入場者数 662,854人(目標入場者数551,000人)
4. 展覧会開催経費 予算額 268,239,000円 決算額 275,026,360円

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

年間を通じて多くの方々が企画展覧会と常設展示を訪れ、全体としてはバランスのとれたものであったと考える。また、平成15年度は展示の充実以外の面における活動についても推進を図っており、より多くの人々に美術館に親しむ機会を持っていただくことを目標に、地域や観光事業と連携した様々な普及広報事業の実施に努めた。

江戸開府400年記念事業、東京・ミュージアムぐるっとパス(常設展共通入館券発行事業)へ参加。

東京都が実施する外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」へ参加し、常設展入場料金の割引を実施。

東京都観光局と上野公園内施設が連携して実施する公園内ライトアップ事業へ参加。

台東区教育委員会を通じて、台東区内の小中学校へ展覧会情報と観覧料金の無料化PRを実施。

東京都「上野地区観光まちづくり検討会」、台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」、「art-Link上野 - 谷中2003」へ参加し、地域との連携を推進。

5月18日「国際博物館の日」に、上野地区内の美術館・博物館、上野動物園、上野のれん会、台東区と共同で広報普及イベントを実施。

上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」に加入し、ポスター掲示、チラシ・割引券等の配布、広報誌「うえの」（発行：上野のれん会）への展覧会情報掲載など、上野のれん会加盟店を通じた幅広い広報活動を実施。

上野 松坂屋が発行する「Weekly Matsuzakaya」に展覧会情報を掲載。

上野中央通り商店会「江戸開府400年記念、秋の芸術・文化まつり」事業と連携し、商店会で配布されるスクラッチカードに「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」展の割引券を添付。

高校生の常設展入場料金を見直し、低廉化を図った。（個人130 70円、団体70 40円）

自主企画展入場料に割引料金を設定し、割引券を発行。

共催展「レンブラントとレンブラント派」展において、損保ジャパン東郷青児美術館「ゴッホと花」展と、「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展」において、東京国立博物館「空海と高野山」展と連携した共通観覧券を発行した。

年始の休館日数を短縮し、1月2日から開館した。

#### 【見直し又は改善を要する点】

個々の展覧会には反省すべき点もあり、今後の企画や運営に活かし、引き続き社会状況や人びとのニーズの変化に対応した、魅力ある質の高い展覧会の開催に取り組み、より多くの国民を美術館に引き付けるため努力を続けていく必要がある。また、当館は西洋美術作品全般を対象とする国立美術館である事から、交流の相手国や展覧会のテーマについてもヨーロッパが中心となってしまうのは致し方がない事ではあるが、今後とも今まで密とは言えなかった地域との交流に努力し、更に主体的な企画力を発揮できる展覧会を検討していきたい。

\*添付資料

入館者数の推移（事業実績統計表 p.4）

入場料収入の推移（事業実績統計表 p.7）

## 「常設展」

### 方 針

フランスの建築家ル・コルビュジエが設計した本館では、18世紀以前に活躍した芸術家の絵画・彫刻作品を展示しており、キリスト教を主題とした多くの宗教画を見ることができ、新館では、19世紀から20世紀の作品が展示されている。また、素描のコレクションとしては、18世紀から19世紀のフランスの芸術家の作品が中心に所蔵され、版画コレクションには、15世紀から20世紀初頭までの主要な西洋版画家の作品が所蔵されており、これら版画・素描のコレクションは、テーマを設けて定期的に新館の1室で展示を行っている。さらに、美術館前庭の《地獄の門》、《考える人》、《カレーの市民》などのロダンの彫刻作品の他、館内にはカルポー、マイヨールの作品も展示している。

なお、来館者が常設展の質の高い所蔵作品をいつでも鑑賞できるようにという方針と、通年にわたり展示するものである西洋美術作品の特性のもと、当館の代表的な所蔵作品は年間を通じて展示され、展示替えは特別な場合を除いて行われていない。(貸出中の作品の代替として、普段は収蔵庫にしまわれている作品を展示することはある。)また、版画素描展示室において、テーマを設けて版画・素描コレクションの展示(各3ヶ月程度)を年2回開催している他、所蔵作品を中心に常設展示の作品を活用し、特定のテーマに沿って紹介する教育プログラム「Fun with Collection(子どもから楽しめる美術展)」等の小企画展を開催するなど、魅力ある常設展となるように努めている。

### 実 績

#### 1. 開催期間

平成15年4月1日～平成16年3月31日(306日間)

(平成15年9月9日(火)から12日(金)まで、館内整備のため臨時休館)

(所蔵品展のみの開催期間98日間)

下記の展示は常設展と併設

平成15年3月4日～5月25日(72日間) (平成15年度は48日間)

版画作品展(春)「受難伝-国立西洋美術館所蔵のドイツ・ルネサンス版画による-」

平成15年3月18日～5月25日(60日間)(平成15年度は48日間)

小企画展「織りだされた絵画-国立西洋美術館所蔵17-18世紀タピスリー-」

平成15年7月1日～8月31日(54日間)

Fun with Collection '03「ココロのマド-絵のかたち」

平成15年9月13日～12月14日(80日間)

版画作品展(秋)「ジャック・カロの版画-17世紀フランス、イタリアの人々、宮廷、戦争-」

平成16年3月2日～5月30日(79日間)

版画作品展(春)「ファウストとハムレット:ドラクロワ-ロマン派石版画の魅力」

#### 2. 会 場

前 庭 屋外1階

本 館 1階～2階

新 館 1階～2階

企画展示館 地下2階～地下3階(平成15年3月25日～5月25日開催、小企画展「織りだされた絵画-国立西洋美術館所蔵17-18世紀タピスリー-」)

#### 3. 出品点数(常設作品点数)

前 庭 6件

本 館 82件

新 館 99件

#### 4. 入館者数 271,641人(目標入場者数173,000人)

うち常設展のみの入館者数 138,344人

#### 5. 入場料金 一般420(210)円、大学生130(70)円、高校生70(40)円、小中学生無料 ( )内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料。

65歳以上の方は無料。  
心身の障害者及び、その付添者は無料。  
小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料。  
毎月第2、第4土曜日及び、文化の日は常設展示無料観覧日。

6. 入場料収入（常設展のみの入場料収入の合計23,186,280円）

#### 7. アンケート調査

調査期間 平成16年2月26日（木）、27日（金）、28日（土）、29日（日）（4日間）

調査方法 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。アンケートの協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や、次回展覧会の割引券を提供するなどして、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。

アンケート回収数 300件

アンケート結果

- ・大変良い29.3%（88件）
- ・良い55.4%（166件）
- ・まあまあだった10.7%（32件）
- ・あまり良くなかった1.3%（4件）
- ・良くなかった0.3%（1件）
- ・無回答3.0%（9件）

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

常設展示については、一般の方々からも、専門家の方々からも好意的なご意見を頂き、平成15年度の目標入場者数を大幅に上回った。

国立西洋美術館では、常設展の展示をできるだけ変更しないことを原則としている。従って、定期的に展示替えを行う他の美術館とは異なり、展示替えは原則としておこなっていない。他方、年2回（春と秋）版画素描展示室でテーマを決めて版画素描の展覧会を開催している。平成15年度は15年春にドイツ・ルネサンス版画による「受難伝」、秋に「ジャック・カロの版画」、そして16年春に「ファウストとハムレット：ドラクロワ - ロマン派石版画の魅力」を行った。また、夏には、同室で恒例の「Fun with Collection ココロのマド - 絵のかたち」を開催した。教育プログラムの性格をもつ本企画のために、数点の作品を常設展から同室に展示替えした。子どもから大人、さらに研究者や専門家までの幅広い層を対象とした展示がされたことは大きな成果であった。今後とも一層の充実に取り組んでいきたい。

#### 【見直し又は改善を要する点】

毎年、数点ずつ簡単な作品解説パネルを設置しているが、今後とも解説パネル、サイン及びキャプション等の見直し等を進め、一層親しまれる常設展にするべく努力を重ねていきたい。

# 「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」(小企画展)

## 方 針

この展覧会は、国立西洋美術館に所蔵されているタピスリー作品7点を展覧する小企画展であった。平成14年度に社団法人糖業協会と株式会社日本興業銀行(当時)より寄贈された旧松方コレクション由来のタピスリー6点をお披露目し、加えて、通常あまり展示する機会のない西洋美術館所蔵のゴブラン織りの名品《シャンボール城：9月》に親しんでもらおうという趣旨の展覧会であった。

## 実 績

1. 開催期間 平成15年3月18日～平成15年5月25日(48日間)  
(3月18日からの総開催日数60日間)
  2. 会 場 国立西洋美術館企画展示館 地下2階～地下3階
  3. 主 催 国立西洋美術館  
協 力 西洋美術振興財団
  4. 出品点数 7件
  5. 入館者数38,101人(目標入場者数46,000人)  
うち「織りだされた絵画」のみの入館者数6,769人  
3月18日からの総入場者数48,558人(目標入場者数57,000人)  
初の無料観覧の企画展ではあったが、入場者数が意外に伸びず、目標入場者数を上回ることができなかった。通常の企画展と比べ展覧会規模の小さい「小企画展」であり、総出品点数が7点と少なかったため、観覧者の興味を引きつけるという面で至らなかった。
  6. 入場料金 無料
  7. 入場料収入 0円
  8. 担当した研究員数 4人
  9. 展覧会の内容  
当館には、これまで、タピスリー芸術の頂点ともいわれる、ルイ14世治下のフランスで織られた著名なゴブラン織り連作「王の城づくし」中の1点《シャンボール城：9月》が所蔵されていた。しかし、繊細で脆弱な絹糸が用いられていることによる保存上の理由と、展示効果の観点から、なかなか公開の機会に恵まれてこなかったが、平成13年度に糖業協会および、日本興業銀行(寄贈当時)より、かつて松方コレクションに属していた計6点の見事なタピスリーの寄贈を受けたことで、17世紀から18世紀のタピスリー芸術の精華であるこれら7点の作品を初めて公開した。なお、本展覧会は多くの人々に鑑賞の機会を提供し、また、寄贈を受けた作品が美術館活動の中で有意義に活用されているという実情を理解してもらうために、全ての入場者の入場料金を無料とした。
  10. 講演会等  
2回 参加人数220人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)  
スライドトーク等  
2回 参加人数80人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ)
  11. 広報  
駅張りポスター、インターネットホームページ、DM、アドカードDUE、チラシ等での情報提供を実施し、広報活動に努めた。
  12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等
- 【新聞】
- \* サンケイスポーツ(日曜特別版)平成15年2月23日(14面) 発行：産経新聞社
  - \* 定年時代 平成15年3月3日(7面) 発行：(株)新聞編集センター

- \*MAINICHI WEEKLY 平成15年3月15日(15面) 発行:毎日新聞社
- \*THE Asahi Shimbun 平成15年3月21日(29面) 発行:朝日新聞社
- \*群馬よみうり あみ~ご(VOL.38) 平成15年3月22日(4面) 発行:群馬よみうり新聞社
- \*朝日新聞(夕刊) 平成15年3月27日(7面) 発行:朝日新聞社
- \*朝日マリオン21(朝日新聞夕刊) 平成15年3月27日(7面) 発行:朝日新聞社
- \*読売新聞(夕刊) 平成15年4月1日(6面) 発行:読売新聞社
- \*読売新聞(夕刊) 平成15年4月1日(6面) 発行:読売新聞社
- \*朝日新聞(夕刊) 平成15年5月8日(11面)(執筆者:主任研究官 高橋 明也) 発行:朝日新聞社
- \*高知新聞 平成15年5月19日(7面) 発行:高知新聞社

【雑誌】

- \*月刊美術(3月号)平成15年2月20日(179頁) 発行:サン・アート
- \*CLUB LIFE2003(VOL.3)平成15年2月28日(27頁) 発行:Editorial Office and Advertising
- \*旅なかま(VOL.149)平成15年3月(93頁) 発行:朝日サンツアーズ
- \*Sings&Displays 平成15年3月(64頁) 発行:マスコミ文化協会
- \*文化庁月報(2003.3月号)平成15年3月(38頁)(執筆者:主任研究官 高橋 明也)発行:(株)ぎょうせい
- \*日経マスタース(3月号)平成15年3月1日(124頁) 発行:日経BP社
- \*DODA(NO.10)平成15年3月5日(15頁) 発行:(株)学生援護会東日本
- \*ミセス(4月号)平成15年3月7日(367頁) 発行:文化出版局
- \*東京アートナビ(4月号)平成15年3月10日(7頁、26頁(講演会)) 発行:生活ガイド社
- \*東京ウォーカー 平成15年3月11日(171頁) 発行:(株)角川書店
- \*オレンジページ 平成15年3月17日(152頁) 発行:(株)オレンジページ
- \*東京パノラマ 平成15年3月17日(18頁) 発行:東京ニュース通信社
- \*横浜ウォーカー(2003 NO.6) 平成15年3月18日(163頁) 発行:(株)角川書店
- \*Tokyo Walker(増刊号) 平成15年3月19日(135頁) 発行:(株)角川書店
- \*Weekly ぴあ 平成15年3月24日(232頁,236頁) 発行:ぴあ(株)
- \*歩く地図 東京 平成15年3月25日(118頁) 発行:山と溪谷社
- \*CREA(クレア4月号) 平成15年4月(275頁) 発行:(株)文芸春秋
- \*美術手帖(VOL.55) 平成15年4月(NO.833) 発行:美術出版社
- \*上野の山文化ゾーン(行事予定2003) 平成15年4月(2頁) 発行:台東区文化・都市交流担当
- \*てんとう虫(2003 4月号) 平成15年4月1日(80頁) 発行:(株)アダック
- \*TIC Monthly 平成15年4月1日(8頁) 発行:Tokyo International Centre
- \*和楽(付録:美術手帳) 平成15年4月1日(24~25頁) 発行:小学館
- \*LEE 平成15年4月1日(151頁) 発行:集英社
- \*ポテトチップス(NO.29) 平成15年4月30日(12頁) 発行:ポテトチップス編集部
- \*Hanako(NO.736) 平成15年5月7日(81頁) 発行:マガジンハウス
- \*芸術新潮 平成15年5月25日(120頁) 発行:新潮社
- \*UNIVERS DES ARTS (NO.8)(177頁) 発行:朝日アートコミュニケーション
- \*うえの(2003.4月号 NO.528)(44~45頁) 発行:上野のれん会

【ネット】

- \*サイト名:《美術館.com》 配信元:日本スタデオ
- \*サイト名:《Cabiネット》 平成15年3月1日(NO.22) 配信元:社団法人 時事画報社
- \*サイト名:《Japan Design Net》 配信元:ジャパンデザインネット事務局

### 13. アンケート調査

調査期間 平成15年5月1日～平成15年5月4日(4日間)

調査方法 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。調査協力者へはポストカードなどの粗品を進呈した。

アンケート回収数 200件

アンケート結果

- ・大変良い46.0%(92件)・良い45.5%(91件)・まあまあだった7.5%(15件)
- ・あまり良くなかった0%(0件)・良くなかった0%(0件)・無回答1.0%(2件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

工芸作品、なかでもタピスリーのみを扱う展覧会は、所蔵品にほとんど工芸作品をもたない西洋美術館では前例がなく、この点でも通常の展覧会とは少々異なる、熱心な観客を集めることが出来た。出品作品の数でいえば、僅か7点(これに参考出品作品5点を加える)という、極めて小さな規模の展覧会であったが、それぞれの作品は大きく、展示空間の構成としては異例のものとなった。寄贈作品中の1点《姉たちに贈り物をするプシュケ》には、ほぼ1年をかけて修復・洗浄が施され、その成果も展覧されたことは、普及・教育的な観点からも評価される試みであった。

寄贈作品6点がすべて旧松方コレクションに所属していた事実は、このコレクション本来の規模と広がりに関して、大変興味深い事例を提示したことになる。とりわけ、このコレクション中における工芸作品の位置付けは、松方がコレクションを行った時代の芸術思潮と相まって、これからの研究課題の一つとなることが予想される。

寄贈作品のお披露目及び普段展示されない作品の公開、という展覧会の性質に鑑み、なるべく多くの方に見てもらうことを目的として、当館としては初の観覧料無料という試みを行なった。カタログに関して、専門性と普及性をともに満足させるようなものが仕上がりに、結果的に、タピスリーという分野が多くの人々の目に触れることとなり、好評を得ることが出来た。

#### 【見直し又は改善を要する点】

入場料に関しては、初の試みとして観覧料を無料とした結果、多方面からの評価を頂くことが出来たものの、独立行政法人化した美術館の収入増に努めるという経営的方向性とは多少相反した。国民の財産である美術品をできるだけ多くの人々に、廉価で日常的に接してもらいたいということと、受益者負担という我が国の考えは、容易に一致点を見出すことが出来ないとも言える。この問題はこれからも考えていくべき課題のひとつと考える。

また、今回のタピスリー展覧会を契機として、絵画・彫刻・版画作品以外に、将来的には工芸の部門を西洋美術館に開く可能性についても検討していきたい。但し、この点は、展示スペース、コレクション、専門部員の増員ということとも関連する問題であり、議論を重ねる必要がある。

## 「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」(自主企画展)

### 方 針

本展覧会は、かねてより交流の深いドレスデン版画素描館との共催により、これまで日本でまとめて紹介されたことのないドイツ・ロマン主義の素描に焦点を合わせたものである。ナザレ派の指導的立場にあったユリウス・シュノル・フォン・カロルスフェルトの「イタリア風景画帳」を中心に、フリードリヒ、カールス等の代表的作家の風景素描103点を展示した。イタリアに拠点を置いて活動したナザレ派と、ドイツに留まり北方の幻想的な風景を描き続けたフリードリヒらの風景素描を比較検討することで、当時のドイツの作家たちの多様性を知ることのできる内容となった。

### 実 績

1. 開催期間 平成15年6月24日(火)～8月24日(日)(54日間)
  2. 会 場 国立西洋美術館企画展示館 地下2階
  3. 主 催 国立西洋美術館、西洋美術振興財団  
後 援 東京ドイツ文化センター、ドイツ連邦共和国大使館  
助 成 財団法人東芝国際交流財団  
協 力 全日本空輸(ANA)
  4. 出品点数 103件
  5. 入館者数 48,114人(目標入場者数41,000人)
  6. 入場料金 当日券 一般850(600)円、大学生450(250)円、高校生250(100)円、小中学生無料  
割引券 一般800円、大学生400円、高校生200円  
前売券 一般700円、高大生350円、高校生150円  
( )内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料。  
小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても入場無料。  
心身の障害者及び、その付添者は無料。
  7. 入場料収入 24,652,350円
  8. 担当した研究員数 3人
  9. 展覧会の内容  
この展覧会は、「風景画帳」と呼ばれるユリウス・シュノル・フォン・カロルスフェルト(1794-1872)の作品を中心に、ドイツ・ロマン主義の風景素描を紹介したものである。
  10. 講演会等  
4回 参加人数300人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)  
スライドトーク等  
2回 参加人数34人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ)  
イヤホンガイドの実施  
利用者数2,794人(詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ)  
展覧会に関連する音楽プログラム  
1回 参加人数100人(詳細は「教育普及」展覧会に関連する音楽プログラム欄へ)
  11. 広報  
新聞、雑誌、交通広告、インターネットホームページ、DM、アドカードDUE、チラシ等による幅広い情報の提供と、台東区教育委員会を通じた小中学校への資料等配布及び上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示、チラシの配布等の広報を行った。また、本展覧会は当館の自主企画展としては初めて入場料の割引料金を設定し、インターネットホームページ(国立西洋美術館及び(株)日本スタデオ「美術館.com」)への割引引換券掲載や、アドカードDUEによる配布等を行い、積極的に広報活動を実施した。
  12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等
- 【新聞】

- \*The Asahi Shimbun(Arts in Sight) 平成15年5月23日(29面) 発行:ヘラルド朝日
- \*上毛新聞ぱれっと 平成15年6月20日(29面) 発行:上毛新聞社
- \*東洋経済日報 平成15年6月27日(7面) 発行:東洋経済日報社
- \*聖教新聞 平成15年6月28日(9面) 発行:聖教新聞社
- \*STARS and STRIPES 平成15年7月3日(2面) 発行:星条旗新聞社
- \*朝日新聞(夕刊)マリオン 平成15年7月3日(7面) 発行:(株)朝日マリオ マリオン編集部
- \*朝日新聞(夕刊) 平成15年7月24日(10面) 発行:朝日新聞社
- \*朝日新聞 平成15年7月26日(35面) 発行:朝日新聞社
- \*Japan Times 平成15年7月30日(11,13面) 発行:Japan Times
- \*朝日新聞 平成15年8月3日(39面) 発行:朝日新聞社
- \*読売新聞(夕刊) 平成15年8月6日(10面) 発行:読売新聞社
- \*朝日新聞(夕刊) 平成15年8月9日(12面) 発行:朝日新聞社
- \*朝日新聞 平成15年8月10日(35面) 発行:朝日新聞社
- \*朝日新聞 平成15年8月19日(31面) 発行:朝日新聞社

【雑誌】

- \*文化庁月報(2003.5月号) 平成15年5月(45頁)(執筆:主任研究官 佐藤 直樹) 発行:(株)ぎょうせい
- \*旅なかま 平成15年5月1日(71頁) 発行:朝日新聞事業(株)
- \*翼の王国(Wing Span 5月号) 平成15年5月1日(122頁) 発行:ANA「翼の王国」編集部
- \*POWER GUIDE 平成15年5月15日(29頁) 発行:POWER GUIDE TOKYO
- \*校外学習通信(VOL.118) 平成15年5月22日 発行:みつくねっと
- \*e t c(6月号) 平成15年5月25日(7頁) 発行:言水制作室
- \*My クロスワード(VOL.23) 平成15年5月26日(69頁) 発行:学習研究社
- \*チケット びゅう 平成15年5月28日(3頁) 発行:びゅう旅行企画センター
- \*Tokyo Walker 平成15年6月(162頁) 発行:(株)角川書店
- \*文部科学時報 平成15年6月(83頁)(執筆:主任研究官 佐藤 直樹) 発行:ぎょうせい
- \*元気生活 平成15年6月1日(42頁) 発行:(株)アレット出版
- \*月刊 日本橋 平成15年6月1日(69頁) 発行:月刊 日本橋編集部
- \*ギャラリー(6月号) 平成15年6月1日(20頁) 発行:ギャラリーステーション
- \*月刊 新松戸 平成15年6月1日(50~51頁) 発行:(有)ファクトリィ
- \*いけ花 龍生(7月号) 平成15年6月1日(27頁) 発行:(社)龍生華道会
- \*プラズマ(7月号) 平成15年6月1日(38頁) 発行:芸術生活社
- \*月刊ボザール(7月号) 平成15年6月1日(36頁) 発行:(社)サロン・デ・ボザール
- \*第三文明 平成15年6月1日(107頁) 発行:(株)第三文明社
- \*東京パノラマ 平成15年6月2日(19頁) 発行:東京ニュース通信社
- \*Weekly ぴあ 平成15年6月2日(261,262頁) 発行:ぴあ(株)
- \*東京人 平成15年6月3日(147頁) 発行:都市出版
- \*サンデー毎日 平成15年6月8日(52頁) 発行:毎日新聞社
- \*文教ニュース(NO.1731) 平成15年6月9日(35頁) 発行:(株)文教ニュース社
- \*東京アートナビ(7月号) 平成15年6月10日(18,27,33頁) 発行:生活ガイド社
- \*ぱど(NO.745) 平成15年6月13日(19頁) 発行:(株)ぱど
- \*Sings&Displays 平成15年6月10日(67頁) 発行:マスコミ文化協会

- \*ZENBI(7月号) 平成15年6月15日(41頁) 発行:全日本美容業生活衛生同業組合
- \*あいぼりー(VOL.28 2003 SUMMER) 平成15年6月16日(23頁) 発行:京王電鉄
- \*Office ぱど 平成15年6月18日(17頁) 発行:(株)ぱど
- \*月刊 美術(7月号) 平成15年6月20日(193,205頁) 発行:(株)サン・アート
- \*美術の窓 平成15年6月20日(164頁) 発行:生活の友社
- \*月刊エレクトーン(7月号) 平成15年6月20日(138頁) 発行:ヤマハミュージックメディア
- \*Yomiuri Weekly 平成15年6月23日(48頁) 発行:読売新聞東京本社
- \*鎌倉萌(7月号) 平成15年6月24日(4頁) 発行:鎌倉生涯学習センター
- \*芸術新潮(2003,7月号) 平成15年6月25日(115,124頁) 発行:新潮社
- \*デューダ(DODA) 平成15年6月25日(15頁) 発行:学生援護会東日本
- \*京成らいん(7月号) 平成15年6月26日(9頁) 発行:京成電鉄(株)総務部広報担当
- \*月刊ライト 平成15年6月28日(27頁) 発行:保険銀行日報社
- \*文教ニュース 平成15年6月30日(43頁) 発行:(株)文教ニュース社
- \*クロスワードメイト 平成15年7月1日(104頁) 発行:(株)マガジン・マガジン
- \*るるぶじゃぱん(8月号) 平成15年7月1日(495頁) 発行:JTB出版販売(株)
- \*一個人(8月号) 平成15年7月1日(139頁) 発行:KKベストセラーズ
- \*うえの(2003,7月号) 平成15年7月1日(12~15頁)(執筆者:主任研究官 佐藤 直樹)  
発行:(株)上野のれん会
- \*日経Masters 平成15年7月1日(190頁)発行:日経BP
- \*TIC Monthly 平成15年7月1日(8頁) 発行:Tokyo International Centre
- \*婦人画報(8月号) 平成15年7月1日(117頁) 発行:アシュット婦人画報社
- \*定年時代(7月号) 平成15年7月7日(15頁) 発行:(株)新聞編集センター
- \*藝術公論 平成15年7月7日(135頁) 発行:アイエフティー(株)
- \*ケイコとマナブ(首都圏版) 平成15年7月25日(444頁) 発行:(株)リクルート
- \*Art Journal 平成15年7月30日(218頁) 発行:(株)アートジャーナル
- \*季刊ポテトチップス 平成15年7月30日(43頁) 発行:ポテトチップス編集部
- \*アートフィールド探訪ガイド ギャラリー(8月号) 平成15年8月(121頁) 発行:ギャラリーステーション

#### 【ネット】

- \*サイト名:《デザインイベントエース》 配信元:ジャパンデザインネット
- \*サイト名:《博物館 情報工房/インターネットミュージアム》 配信元:丹青社

#### 13. アンケート調査

調査期間 平成15年8月14日~平成15年8月17日(4日間)

調査方法 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。アンケート調査の協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や次回展覧会の割引券を進呈するなどして、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。

アンケート回収数 300件

アンケート結果

- ・大変良い23.0%(69件)・良い53.3%(160件)・まあまあだった19.7%(59件)
- ・あまり良くなかった2.3%(7件)・良くなかった0%(0件)・無回答1.7%(5件)

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

知名度だけが先行するロマン主義というテーマを取ることで、美術ファンにとってもなじみが深いとは言えない時代の作家たちを一堂に紹介することができたことは、非常に良いことであった。なによりも、昨今、国内の美術館が入場者数ばかりに重点を置く傾向にあるため、本展のような素描という地味な主題を扱うことができるのは、もはや国立西洋美術館など少数の美術館しかないという状況にある。それにもかかわらず、今回、目標入場者数を大幅に上回り、素描展としては異例に多い、5万人近くの入場者数があったのは、どの展覧会でも見られるような内容と異なる展示に興味を持つ美術ファンが、予想以上に多く潜在していることを明らかにしたと言える。展覧会カタログも、関係者から高い評価を得ており、国際的にも日本の展覧会カタログの一つの基準を示すことができたと考えている。今後、日本においてドイツ・ロマン主義の作家を研究する際には、本カタログが基本資料となるような、高い学術レベルも備えたものとなった。また、印刷のクオリティーも、現地での色校正を行うことが出来たため、セピア素描という再現の非常に困難な素描群を精確に表現することが出来た。

展覧会に合わせて企画されたコンサートは、「シュノル父子とメンデルスゾーン」という、美術と音楽の世界を「素描」というキーワードを軸に構成された内容の深いものであった。メンデルスゾーンが音楽だけでなく、素描家としても優れた作家であったことから、ロマン主義の美術と音楽の両分野において素描が果たした重要な役割が浮き彫りにされたのである。しばしば美術館でのコンサートとなると、展覧会の内容とはあまり関係のないものが行われることがあるが、本展覧会においては、コンサートの内容が展覧会の主題を広げることのできる知的なプログラムであったことが評価されると考える。

### ・その他、特色ある取組み

小中学生向けに、展覧会への理解を深めるための解説パンフレット（ジュニアパスポート）を作成し、無料で配布することとした。

無料観覧券については、有効期限付きの券を発行し混雑の緩和に努めた。

台東区教育委員会を通じて、台東区内の小・中学校へ展覧会情報と観覧料金の無料化PRを実施。

展覧会に関連したレクチャー・コンサート「シュノル父子とメンデルスゾーン」を開催した（詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ）。

### 【見直し又は改善を要する点】

アンケートに見られるように観客からの評判も高かったが、カタログの内容を重視した反面、ページ数が増加し、販売価格が通常の価格より高いものとなった。ただ、素描展という性質上、それが原因でカタログの販売数が落ちるということはなかった。むしろ、このような専門性の高い展覧会では、カタログの定価を下げるために印刷部数を無駄に増やすことをせずに、今回のように必要な部数だけを印刷し、本当にカタログを必要とする観覧者がそれを購入する方がよいと考える。

## 「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」(共催展)

### 方 針

17世紀オランダ絵画を代表する画家レンブラントは日本でもよく知られ、また、版画を含めれば、かなり多くの油彩画も紹介されてきた。しかし、その多くは、いわゆる特定の美術館名作展の一部をなすものであったり、レンブラントとその周辺の工房作品を漫然と並べただけの展覧会であったりした。本展は、そのような種類の展覧会とは画然と分けられるべきものであり、21世紀初頭における「レンブラント学」を可能な限り吸収しながら、物語画家としてのレンブラントの世界に迫ろうとしたものである。また、本展開催に際しては、同時に、17世紀オランダ絵画において物語画が果たした役割についても再考する機会となつてほしいという期待もあった。この時代の絵画は風景画や風俗画など、日常的場面が写實的に描かれた作品が多いが、レンブラントは生涯にわたってそうした絵画とは異なる作品を制作し続けたことの意味を探った。

### 実 績

1. 開催期間 平成15年9月13日(土)～平成15年12月14日(日)(80日間)
2. 会 場 国立西洋美術館企画展示館 地下2階～地下3階
3. 主 催 国立西洋美術館、NHK/NHKプロモーション  
後 援 外務省、文化庁、オランダ大使館  
協 賛 損保ジャパン  
協 力 日本航空、日本通運、ポーラ美術振興財団、西洋美術振興財団
4. 出品点数 92件
5. 入館者数 272,526人(目標入場者数224,000人)
6. 入場料金 当日券 一般1,300(950)円、大学生900(510)円、高校生800(450)円、小中学生無料  
割引券 一般1,200円、大学生850円、高校生750円  
前売券 一般1,100円、大学生800円、高校生700円  
2館共通入館券 一般1,700円、大学生1,200円、高校生1,100円、高齢者(65歳以上)1,600円  
とくまるチケット 高校生以上1,000円(ただし、2名以上分を同時購入、前売券期間のみ販売)  
( )内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料。  
小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料。  
心身の障害者及び、その付添者は無料。  
「東郷青児美術館「ゴッホと花 - "ひまわり" をめぐって - 」展と2館共通入館券及び、とくまるチケット(購入条件:2名以上分を同時購入、販売期間:前売券販売期間のみ)を実施
7. 入場料収入 87,362,350円
8. 担当した研究員数 3人(内1人は、客員研究員)
9. 展覧会の内容  
アムステルダム国立美術館とベルリン国立絵画館は、レンブラントをはじめとする17世紀オランダ絵画の宝庫として世界中に知られている。本展には、この両館からレンブラントの傑作6点を含むオランダ絵画の貴重な作品が多数出品された。さらに加えて、ロンドンやデン・ハーグ、ブタペストまた、ワシントン、ボストンなどの美術館から、重要なレンブラントとレンブラント派の油彩画も出品され、レンブラントと17世紀オランダ絵画に関心をもつ人々にとって、この展覧会はまたとない機会を提供するものとなった。
10. 講演会等  
2回 参加人数245人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)  
スライドトーク等  
5回 参加人数592人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ)  
国内外のレンブラント研究者並びに、17世紀オランダ絵画研究者によるシンポジウム  
1回 参加人数101人(詳細は「教育普及」シンポジウム欄へ)  
イヤホンガイドの実施

利用者数36,001人(詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ)

## 11. 広報

新聞、雑誌、交通広告、インターネットホームページ、DM、アドカードDUE、チラシ等による幅広い情報の提供と、上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示、チラシの配布等の広報を行った。また、インターネットホームページ(NHKプロモーション)への割引引換券掲載や、アドカードDUEによる配布を行い、積極的に広報活動を実施した。

## 12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

### 【新聞】

- \* 茨城新聞 平成15年8月22日 発行：茨城新聞社
- \* 福島民報 平成15年8月25日 発行：福島民報社
- \* 朝日新聞 平成15年8月30日 発行：朝日新聞社
- \* サンケイスポーツ日曜特別版 平成15年8月31日 発行：産経新聞社
- \* 日刊ゲンダイ 平成15年9月12日
- \* 毎日新聞 平成15年9月17日 発行：毎日新聞社
- \* 読売新聞 平成15年9月20日 発行：読売新聞社
- \* 愛媛新聞 平成15年9月21日
- \* 日本経済新聞(夕刊) 平成15年9月22日 発行：日本経済新聞社
- \* 新潟日報 平成15年9月23日
- \* 徳島新聞 平成15年9月23日
- \* 秋田魁新報(夕刊) 平成15年9月24日
- \* 山陰中央新報 平成15年9月24日
- \* 南日本新聞 平成15年9月24日
- \* 山形新聞(夕刊) 平成15年9月25日
- \* 高知新聞 平成15年9月25日
- \* 四国新聞 平成15年9月25日
- \* 静岡新聞(夕刊) 平成15年9月27日
- \* 京都新聞(夕刊) 平成15年9月27日
- \* 読売新聞 平成15年9月27日 発行：読売新聞社
- \* 産経新聞 平成15年9月27、30日 発行：産経新聞社
- \* 朝日新聞(夕刊) 平成15年10月2日 発行：朝日新聞社
- \* 夕刊フジ 平成15年10月2日
- \* 朝日新聞(夕刊) 平成15年10月6、9日 発行：朝日新聞社
- \* 東京新聞 平成15年10月9日 発行：東京新聞社
- \* 読売新聞(夕刊) 平成15年10月11日 発行：読売新聞社
- \* 産経新聞 平成15年10月9、11日 発行：産経新聞社
- \* 産経新聞 平成15年12月11日 発行：産経新聞社

### 【雑誌】

- \* ヒッティhtwi ビジュアルアート誌 No.21 平成15年8月10日号
- \* metropolitana vol.8 平成15年8月
- \* 産業新潮 vol.52 平成15年8月号
- \* 音楽現代 平成15年9月1日発行
- \* SPA! 平成15年9月9日

- \*週刊仕事発見 NO.623 平成15年9月9日号
- \*週刊新潮 平成15年9月18日
- \*週刊文春 平成15年9月18日
- \*FIGARO japan 平成15年9月20日
- \*東京福祉会だより 第38号 (通刊61号)平成15年9月20日発行
- \*クロワッサン 平成15年9月25日
- \*Weekly ぴあ 平成15年9月29日
- \*CLUG NO.268 SEPTEMBER2003.9
- \*プレゼントfan Vol.100 9月号
- \*いきいき 平成15年9月号
- \*MADO美術の窓 9月号
- \*芸術公論 2003年9月号
- \*ユニヴェールデザイン誌日本版 芸術世界 UNIVERS DES ARTS 平成15年9月
- \*アート・トップ Vol.193 平成15年9月号
- \*てんとう虫(UCカード会員誌) 9月号
- \*メディカル・クォール No.106 平成15年9月号
- \*Signs&Displays サイン&ディスプレイ 平成15年9月号
- \*ZENBI No.568 平成15年9月号
- \*RYUSEI いけばな龍生 No.521 9月
- \*ハヤシ画廊 第101号 平成15年10月1日発行
- \*Hanako 平成15年10月1日
- \*サライ 平成15年10月2日
- \*ステラSTERA 平成15年10月3日
- \*東京アートナビ 10 平成15年10月10日発行
- \*ONDORI 刺繍通信 Vol.3 秋冬号 平成15年10月20日発行
- \*オブラobra 平成15年10月
- \*一個人 平成15年10月
- \*日経インテレッセ 平成15年10月
- \*日経 Masters 平成15年10月
- \*STORY 平成15年10月
- \*メイプル 平成15年10月
- \*家庭画報 平成15年10月
- \*25ans ヴァンサンカン 平成15年10月
- \*Pause パウゼ 平成15年10月
- \*Domaniドマーニ 平成15年10月
- \*Graziaグラツィア 平成15年10月
- \*東北じゃらん 2003NO.10 10月号
- \*一枚の繪 平成15年10月
- \*月刊さんさん(朝日生命生活情報誌)平成15年10月号
- \*VISA 平成15年10月
- \*婦人公論 平成15年11月22日
- \*懸賞なび KENSHO NAVI 平成15年11月

- \*音楽の友 ONGAKU NO TOMO 平成15年11月
- \*旅行読売 平成15年11月
- \*芸術新潮 平成15年11月号
- \*X・Knowledge エクスナレッジ Vol.22 平成15年12月1日発行
- \*週刊新潮 平成15年12月11日
- \*ムー MU 平成15年12月

### 13. アンケート調査

調査期間 平成15年11月6日～平成15年11月9日(4日間)

調査方法 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力を得た。アンケートの調査協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や次回展覧会の割引券を進呈するなどして、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。

アンケート回収数 400件

アンケート結果

- ・大変良い26.5%(106件)・良い49.5%(198件)・まあまあだった16.8%(67件)
- ・あまり良くなかった3.3%(13件)・良くなかった1.4%(6件)・無回答2.5%(10件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

一般に、主題のある作品は敬遠されることが多いが、レンブラントの知名度もあって、30万人に近い観覧者を得た。多くの作品がやや特殊な聖書主題を持つものであり、カタログ以外での解説が必要との判断から、カタログとは別に主題解説を中心とした小冊子を刊行した。有料(100円)ではあったが、好意的に受け止められた。今後ともカタログまでの詳細な議論はいらないが、最低の情報は欲しいという層のためのさまざまな工夫をしていきたい。その一方、キリスト教に深い知識をもつ方々からの専門的質問も多く寄せられ、いつもの展覧会とはやや異なる層の関心をも惹くことができたと考える。

#### ・その他、特色ある取組み

共催者の協力を得て小中学生の観覧料金を無料とした。また、展覧会への理解を深めるための小中学生向け解説パンフレット(ジュニアパスポート)を作成し、無料で配布することとした。会期中は展示解説ビデオを上映した。

国際シンポジウム「レンブラントと17世紀オランダ絵画」を開催し、国内外の研究者と交流を図った。無料観覧券については、有効期限付きの券を発行し混雑の緩和に努めた。

#### 【見直し又は改善を要する点】

今回のような小冊子の出版は、「カタログの売れ行きを悪くするもの」として、共催者側の意見はあまり芳しくない。カタログ収入は展覧会主催者にとって無視することのできない収入源であり、美術館としてもカタログが多く売れることを希望しているのであるが、その一方、2000円以上もするカタログを購入するまでの関心はないが、手軽な解説書は欲しいという要望は高い。この問題は10年も前から館内では議論されてきたものであるが、最も良いと考える解決策が未だ無い。難しいことではあるが、今後、最適な方策を検討し実施していくべきであると考える。

# 「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」（共催展）

## 方 針

1756年に教皇ベネディクトゥス14世がヴァチカン美術館を創設する以前から、教皇庁は古代ローマの彫刻を長きに亘って蒐集してきたが、18世紀以降も新たな発掘によって出土した作品を蒐集し続けてきた。その数は膨大であり、中には世界的に唯一無二の作品も含まれている。しかし、近代の彫り直しや磨き直しが加えられた作品も少なくない。今回の展覧会では、できるだけ近代の彫り直しの加えられていない、また、ギリシャ彫刻の模刻ではない、ローマ人の姿を紹介するという方向で準備を進めた。当初は17、18世紀の古代彫刻の発掘の歴史を絡めた内容を検討していたが、ヴァチカン側の意向や諸事情及び当館の諸事情がかみ合わず、現在の内容となった。結果として、西洋美術のジャンルとして重要な位置を占めるローマの肖像彫刻の歴史を、その誕生からその終焉までを6章85点の作品で構成し、そこからローマ人の生そのものが感じられるような内容を目指した。それらの中には考古学的に世界で唯一完全な状態で残る作品も含まれている。壮麗なローマ建築や神像とは異なる素朴なローマ的世界を紹介することを目的とした。

## 実 績

1. 開催期間	平成16年3月2日(火)～平成16年5月30日(日)(79日間) (うち平成15年度26日間)
2. 会 場	国立西洋美術館企画展示館 地下2階～地下3階
3. 主 催	国立西洋美術館、NHK/NHKプロモーション
後 援	外務省、文化庁、ローマ法王庁大使館
協 力	アリタリア航空、日本通運、西洋美術振興財団
4. 出品点数	85件
5. 入館者数	32,472人(目標入場者数202,000人(うち平成15年度中は67,000人))
6. 入場料金	当日券 一般1,300(950)円、大学生900(510)円、高校生800(450)円、小中学生無料 割引券 一般1,200円、大学生850円、高校生750円 前売券 一般1,100円、大学生800円、高校生700円 2館共通入館券 一般2,000円、大学生1,400円、高校生1,200円 ( )内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料。 小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料。 心身の障害者及び、その付添者は無料。 東京国立博物館「空海と高野山」展と2館共通入館券を実施
7. 入場料収入	9,256,960円
8. 担当した研究員数	3人(内1人は、客員研究員)
9. 展覧会の内容	ヴァチカン美術館古代美術、考古学部門の全面的協力により実現された、共和政ローマから初期キリスト教時代まで、約600年の間に制作された古代ローマ人の肖像彫刻を中心とした展覧会である。第1章「肖像の誕生」、第2章「肖像とアイデンティティ」、第3章「特徴的髪型をした女性の肖像：古代の装い」、第4章「肖像と永遠性」、第5章「帝国の象徴」、第6章「古代肖像の終焉」と、紀元前3世紀以来脈々と展開してきた古代ローマ肖像の最後の様相までを見ることができる展覧会である。
10. 講演会等(会期中に4回開催予定、うち平成15年度は3回)	3回 参加人数307人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ) スライドトーク等(会期中に6回開催予定、うち平成15年度は1回) 1回 参加人数34人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ) イヤホンガイドの実施

利用者数 4,433人(詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ)

### 11. 広報

新聞、雑誌、交通広告、インターネットホームページ、DM、チラシ等による幅広い情報の提供と、上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示、チラシの配布等の広報を行った。また、インターネットホームページ(NHKプロモーション)では割引引換券を掲載するなど積極的に広報活動を実施しており、現在も継続中である。

### 12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

#### 【新聞】

\* 中日新聞 平成16年3月4日(9面)

#### 【雑誌】

\* 日刊協同組合通信No.14964(P10,11) 平成16年1月29日 発行:(株)協同組合通信社

\* 月刊いちかわ 2月号(P.32) 発行:(株)エピック月刊いちかわ編集室

\* アーチ52号 発行:アートコレクションハウス(株)

\* Cabiネット 平成16年2月15日 発行:社団法人時事画報社

\* 電通報 4434号 平成16年2月23日(月) 発行:株式会社電通

\* 文化庁月報 425号(P.42) 平成16年2月25日 発行:文化庁

\* 京成らいんVol.560 2・3月号 平成16年2月25日 発行:(株)京成エージェンシー

\* 首都圏イベント情報 3月号 平成16年3月1日 発行:ターミナル情報

\* 日刊協同組合通信No.14988 平成16年3月4日 発行:(株)協同組合通信社

\* 東京リビング 330号 平成16年3月4日

\* サイン&ディスプレイ Signs&Display No.531 平成16年3月 発行:マスコミ文化協会

\* いきいき 4月号 平成16年3月10日 発行:ユーリーグ株式会社

### 13. アンケート調査 平成16年度に実施

## 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

共催者の協力を得て小・中学生の観覧料金を無料とした。また、展覧会への理解を深めるための小・中学生向け解説パンフレット(ジュニアパスポート)を作成し、無料で配布することとした。

展示解説ビデオを上映。

本展覧会に関連して小中学生とその家族を対象にした教育普及プログラム、ファミリープログラム「ぼくの、わたしの大切な物」を新たに企画し、平成15年度に2回開催した。

無料観覧券については、有効期限付きの券を発行し混雑の緩和に努めた。

東京国立博物館「空海と高野山」展と連動したスタンプラリーを実施。

なお、展覧会の自己点検評価については、平成16年度に行う。

## (2) 貸与・特別観覧の状況

### 中期計画

(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。

### 実績

1. 貸与・特別観覧の件数		
貸与	2件	2点
特別観覧	64件	104点
2. その他		
寄託作品の貸与件数	1件	1点

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度も作品の貸与条件、貸与の推進方策について検討を続けた。その結果に基づき、国内外美術館等の貸与要望に対して作品貸与要望の趣旨を考慮し、幅広く迅速な対応が可能となるよう、美術作品貸与規則及び運用細則の見直しを行い、貸し出し業務のルール化と合理的な判断基準を定め、柔軟な対応が図れる内容とするように、さらなる整備に努めた。

- ・作品貸出先（海外1件、国内1件）  
カーサ・デイ・カラレージ（イタリア）、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（国立美術館巡回展）
- ・寄託作品貸出先（国内1件）  
ホテル・オークラ

#### 【見直し又は改善を要する点】

貸し出しの依頼を受けた展覧会へは、企画の内容、輸送・展示に伴う様々な条件、作品保存上の諸条件、さらには当館の展示プログラムなどとの整合性を考慮した上で可能な限りの協力を行っているところである。

しかし、貸与の推進方策として現在の状況が十分であるとは言えないため、今後も貸与の推進方策や、貸与・特別観覧料金の適正な取り扱いなどの改善点について引き続き検討を行い、公開の必要性和保存の調和を図りながら、作品貸与については積極的に取り組んでいく必要がある。

#### \*添付資料

貸与件数等の推移（事業実績統計表 p.8）

特別観覧件数の推移（事業実績統計表 p.9）

### 3. 調査研究

#### 中期計画

(1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。

- <1> 収蔵品に関する調査研究
- <2> 美術作品に関する調査研究
- <3> 収集・保管・展示に関する調査研究
- <4> 美術史、美術動向、作者に関する調査研究
- <5> 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等

(1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。

(2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

#### 実 績

##### 1. 調査研究

###### (1) 収蔵品の調査研究

旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究

中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究

美術館教育に関する調査研究

美術館情報資料に関する調査研究

###### (2) 展覧会のための調査研究

17、18世紀フランス、フランドル・タピスリーの研究

ドイツ・ロマン主義の研究

レンブラントと17世紀オランダ物語画の研究

18世紀における「古代の受容」に関する研究

###### (3) 科学研究費補助金による調査研究

「油絵具の乾燥における脂肪酸組成の変化に対する顔料の影響」の研究

「16 - 17世紀西欧における版画出版と古代の受容」の研究

「博物館の機能及びその効果的な運営の在り方に関する実証的研究」の研究（研究分担者として）

###### (4) 保存・修理に関する調査研究

西洋美術作品の保存修復に関する調査研究

##### 2. 客員研究員等の招聘実績 8人（年度計画記載人数：7人）

美術館教育に関する調査研究

美術館教育研究家 佐藤 厚子

ピストルフィ作品の石像ならびにブロンズ作品の修復と調査

宮城県立美術館副主任研究官 藤原 徹

作品輸送時における振動調査の共同研究

石橋財団美術品担当課長 石井 亨

国立西洋美術館の所蔵作品の材料分析に関する調査研究

東京農工大学工学部属繊維博物館助手 真貝 哲夫

情報、広報事業等に関する英語表記の指導・助言

日本美術研究家 マーサ・マクリントク

レンブラント展関連シンポジウムの企画運営及び報告書の編集

目白大学人間社会学部助教授 小林 頼子

ヴァチカン展調査研究、企画等協力  
国立音楽大学等非常勤講師 日向 太郎  
展覧会に関する音楽プログラムの調査研究、企画等協力  
東京芸術大学演奏芸術センター助手 瀧井 敬子

### 3. 大学院との連携協力

平成14年度より、東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力について協定を締結し、2名の大学院生を受け入れた

併任教官 教授：学芸課長 幸福 輝  
助教授：主任研究官 寺島 洋子

4. 調査研究費 予算額 46,548,000円 決算額 43,065,258円

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度も個々の展覧会の準備に伴う研究調査と、各人の専門領域での研究において、充実した展覧会が実施されたと考える（展覧会カタログや研究紀要を参照）。

また、外国人研究員の招聘、大学等における非常勤講師、他機関の運営委員会・作品購入委員会に参加するなどして、国内外の施設機関及び外部研究者と交流・意見交換を行い、積極的な研究成果の発表に努めたほか、当館の研究成果の発表媒体の一つとして重要な役割を担っている「研究紀要」について、投稿規定、査読の過程などの基本的な編集ガイドラインを整備し、平成15年度の発行から編集方針として併記することとした。

#### 外国人研究員の招聘

ヴォルフガング・ホラー（ドレスデン国立版画素描館館長）

ペトラ・クールマン＝ホディック（ドレスデン国立版画素描館学芸員）

国際シンポジウム「レンブラントと17世紀オランダ絵画」（企画構成：国立西洋美術館 幸福 輝、目白大学/国立西洋美術館客員研究員 小林 頼子）

なお、本シンポジウムの開催にあたっては、ポーラ美術振興財団からのご助成をいただいた。

国立西洋美術館在外研究員（平成14年度より継続）

平成14年6月24日～平成15年6月28日

「1910年代における仏独の前衛画家たちの交流と相互影響に関する調査研究」主任研究官 田中 正之

### 【見直し又は改善を要する点】

所蔵作品の調査について具体的な展望からの調査研究と、その研究成果の公開、学会等への積極的な発表を今後の課題としたい。

\* 調査研究一覧（事業実績統計表 p.108）

## 4 . 教育普及

### 中期計画

- (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。
- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。
- (2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。  
また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
- (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。  
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。  
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。
- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。
- (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。  
また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。
- (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。
- (6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

### 方 針

美術館と美術作品への関心と興味を引き起こし、美術館の利用を促進すること、そして、美術作品をとおして、様々なものの見方や考え方を提供し、人生を豊かに生きるための感性と考える力を養うこと、さらに、幅広い年齢

層、多様な知識、経験、関心をもつ様々な人々の自発的な学習を支援することを目標にしている。そのために、それぞれの対象や目的に合わせ、適切な手段・方法によって美術館や美術と接する機会を提供するよう務める。

## 実 績（総括表）

### (1) - 1 資料の収集及び公開

収集件数 1,641件（入力済データ件数）

公開場所

・企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター

（西洋美術史などの研究者を対象とした資料センターとして、西洋美術史研究図書、雑誌、マイクロフィッシュ等の資料約140,100点を所蔵し公開している。）

利用者数 111人

貸出件数 229件 764点

・本館1階 資料コーナー

（一般の利用者向けに本館1階のフリーゾーンに設置し、展覧会カタログ、年報、要覧など、過去およそ10年分の当館の出版物と、全国美術館案内や美術事典などを公開している。）

本館1階資料コーナーはフリーゾーンとしているため多数の利用者があるが、利用者数の集計はしていない

### (1) - 2 広報活動の状況

刊行物による広報活動 10種 18冊

『国立西洋美術館ニュース ゼフェロス』（年4回発行（春、夏、秋、冬））等の刊行物を発行し、美術館の理解と利用の促進に向けて広報活動を行い、積極的に情報の発信に努めている。

ホームページによる広報活動

ホームページでは、コレクション、展覧会情報、講演会・スライドトーク等のイベント、交通・利用案内、館内施設案内などを常時掲載し、適時更新を行っている。海外からのアクセス向けには英語版のホームページを整備している。また、平成15年度は「館内施設」、「よくある質問コーナー」、「オンライン蔵書目録（OPAC）」のコンテンツを新たに追加した他、職員やインターンシップ及びボランティア募集等の要項の他、レストラン経営企画入札実施要項等の事業案内情報についても掲載を開始した。そのコンテンツの中で研究資料センターの積極的な広報を図るなど、ホームページの利便性向上とインターネットを活用した情報発信を積極的に推進した。

マスメディア等による広報活動

展覧会や美術館の活動についてマスメディア等への情報提供を行い、取材、撮影への協力を積極的に行うなどして美術館事業の普及広報に努めている。

また、平成15年度は企業が運営するWebサイトやメールマガジンへの情報提供や掲載を図った。

### (1) - 3 デジタル化の状況

平成15年度に資料管理のためのデータベース化を行った件数 125件

### (2) - 1 児童生徒・教員を対象とした事業

Fun with Collection'03「ココロのMad - 絵のかたち」 1回

Fun with Collectionは、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず常設展の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、参加者数という計上は行っていない。

ワークショップ（創作・体験プログラム等） 5回 66人

スクール・ギャラリートーク 46回 891人

ファミリープログラム 4回 98人

先生（小・中・高等学校教員）のための鑑賞プログラム 4回 144人

教員研修会 5回 102人

教員夏季研修会	1回	26人
団体訪問者(学校・団体)への解説	35校	1,533人
(2) - 2 講演会等の事業		
講演会	11回	1,072人
スライドトーク等	10回	740人
イヤホンガイド	3回	43,228件
展覧会に関連する音楽プログラム	1回	100人
国内外のレンブラント研究者並びに、 17世紀オランダ絵画研究者によるシンポジウム	1回	101人
(3) - 1 研修の取組		
第11回美術館・歴史博物館学芸員専門研修会	58名	
他の機関が実施する研修等事業への協力を実施	358人	
(3) - 2 大学等との連携		
東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力	2名	
国立西洋美術館インターンシップ	6名(教育普及6名)	
(3) - 3 ボランティアの活用状況		
平成14年度からの検討を踏まえ、ボランティア事業を具体化し、平成16年度からの実施に向けて実施要綱、選考要領を制定した他、ボランティア・コーディネーターを導入するなどして準備を進め、平成16年度11月を目処に開始することとした。		
(4) 渉外活動		
新聞社、団体・企業等と連携し、企画・運営・広報・輸送等の幅広い協力を得た。		
(5) 教育普及経費	予算額 131,463,000円	決算額 123,509,976円

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度は、安定した既存の活動とともに、平成14年度から始まった事業である、研究者・専門家を対象とする研究資料センター、将来の美術館を担う学生の育成を目的としたインターンシップ制度の充実に努めた。ホームページ上での研究資料センターの扱いについては、これまで施設の中に含まれていたが、単独の項目としてメニュー・バーに出し、さらに蔵書検索システム(OPAC)をインターネット上で公開するなど、施設と所蔵資料の普及広報を図った。インターンシップについては、平成14年度の活動を基に、新たな教材(びじゅつーる)の開発を実施した。

また、平成14年度まで検討課題となっていたボランティア事業を具体化し、平成16年度からの実施に向けてボランティア・コーディネーターを新規採用した。

### 【見直し又は改善を要する点】

平成14年度、平成15年度と続けて教育普及の事業は拡大しているが、それに伴う人員の十分な補強は行えない状況にある。膨らみ続ける事業全体を見直し、来館者の希望も踏まえた上で、優先順位をつけて事業の整理を行う必要がある。

### \*添付資料

教育普及件数の推移(事業実績統計表 p.15)

## (1) - 1 資料の収集及び公開(閲覧)の状況

中期計画

(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

### 実績

#### 1. 収集

件数 1,641件(入力済データ件数)

#### 2. 公開

##### (1) 企画展示館事務棟地下1階

公開場所 研究資料センター

公開日数 96日

公開件数

・公開資料数 約140,100件

公開資料数内訳：図書約27,600冊、雑誌約43,400冊(タイトル数は延べ約1,400タイトル)、マイクロ資料約69,100点(マイクロフィッシュ約69,000枚、マイクロフィルム約140本)

・公開請求件数 229件 764点(請求による出納件数のみ、開架書架の利用件数は含まない)

##### (2) 本館1階

公開場所 資料コーナー(フリーゾーン)

公開日数 306日間

公開件数

・公開資料数 262件(92タイトル131件×2セット)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度も、購入による資料収集の他、国内外美術館等との交換図書等により資料の積極的収集を図った。(交換件数国内225件、海外239件)

また、平成15年度末にオンライン蔵書目録(OPAC)のホームページ上での公開を開始した。蔵書データについては、当館は、これまでアメリカ合衆国のOCLC(Online Computer Library Center)の共同目録事業に参加し、国際的な学術情報の共有化に努めてきている。今回、これに加えてホームページ上での公開を開始したことにより、国内外の美術館活動の充実に新たな役割を担っていくことができると自負する。

#### 【見直し又は改善を要する点】

資料及び情報の収集は、国内外の美術館・博物館との連携にも注力しつつ積極的に行っているが、その一方で整理業務が追いつかず、収集した資料を十分に閲覧に供することができなくなっている。

図書整理業務の見直しや人員体制の充実を図ると共に、より一層の外部委託の導入を行い、整理業務の大幅な効率化を推進する必要がある。

また、平成15年度末にオンライン蔵書目録をインターネットのホームページ上で公開したことは、一方で研究資料センターの広報にも重要な効果をもたらすと考えるが、今後も積極的に広報活動を推進し、国内外の調査研究活動に資するよう努力したい。

## (1) - 2 広報活動の状況

### 中期計画

(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。

また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。

### 実績

#### 広報誌名

- (1) 『国立西洋美術館年報 No. 37 (April 2002 - March 2003)』  
発行年月日 平成16年2月27日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)  
料金 無償  
配布先 国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等
- (2) 『国立西洋美術館研究紀要 No. 8』  
発行年月日 平成16年3月31日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)  
料金 無償  
配布先 国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等
- (3) 『平成15年国立西洋美術館要覧』  
発行年月日 平成15年5月1日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)  
料金 無償  
配布先 博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等
- (4) 展覧会に伴う図録  
ア. 『ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描』  
イ. 『レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語』  
ウ. 『ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像』  
発行年月日 3回発行(発行回数3回)(年度計画発行回数の記載は無し)  
料金 ア. 3,300円、イ. 2,300円、ウ. 2,300円  
配布先 会場内販売、国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等
- (5) 『ジュニアパスポート』  
ア. 『ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描』  
イ. 『レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語』  
ウ. 『ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像』  
発行年月日 3回発行(発行回数3回)(年度計画発行回数の記載は無し)  
料金 無償  
配布先 小中学生入場者、学校等教育機関
- (6) 『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』No. 15~No. 18  
発行年月日 平成15年5月20日、8月20日、11月20日、平成16年2月20日 4回発行(発行回数4回)(年度計画記載発行回数4回)  
料金 無償  
配布先 会場内配布、修学旅行計画のための学校等
- (7) 『びじゅつあー 国立西洋美術館はじめてガイド』  
発行年月日 平成16年3月 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)  
料金 無償

配布先 会場内配布、修学旅行計画のための学校等

(8) 『《地獄の門》免震化工事と彫刻の保存』

発行年月日 平成15年9月 1回発行(発行回数1回)

料金 3,000円

配布先 会場内販売、国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等

(9) 『独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館リーフレット』

発行年月日 平成15年12月1日 1回発行(発行回数1回)

料金 無償

配布先 博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等

(10) 展覧会に関連する小冊子

ア. 『レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語』

イ. 『ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 人物略伝および用語解説』

発行年月日 2回発行(発行回数2回)

料金 ア. 100円、イ. 50円

配布先 会場内販売、美術館・博物館関係者等

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度も、各種刊行物及びホームページを利用した広報活動に取り組み、小・中学生向けの展示解説パンフレット『ジュニアパスポート』(無料)、鑑賞の際の理解を支援する企画展覧会の主題解説を中心とした小冊子(有料)を導入するなど、大変有効であった。なお、『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』の発行にあたり(財)西洋美術振興財団より助成を得たほか、『ジュニアパスポート』の発行にあたってはNHKより助成を得ることができた。

また、当館の研究成果の発表媒体の一つとして重要な役割を担っている「研究紀要」について、投稿規定、査読の過程などの基本的な編集ガイドラインを整備し、平成15年度の発行から編集方針として併記することとした。

### 【見直し又は改善を要する点】

インターネットを活用した広報については、作品や美術館情報の極めて有効な発信手段として認識し、毎年拡充を図っているが、規模が大きくなるほど、校正等の情報精度の保持に関わる作業も増えていくため、維持が難しいものとなる。

単に規模を拡大するだけでなく、広報活動の目的と照らし合わせながら、利用者にとってより望ましいものとなるよう、今後も慎重に検討を続ける必要がある。

## (1) - 3 デジタル化の状況

### 中期計画

- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。  
また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。

### 実績

#### 1. 所蔵作品のデジタル化

平成15年度に資料管理のためのデータベース化を行った件数	125件
平成15年度未収蔵作品数	4,364件
平成15年度未データベース化、デジタル化作品数	4,364件
今後のデジタル化の対応	新規に取得した作品についてデジタル化、データベース化を予定

2. ホームページのアクセス件数655,128件(平成12年度アクセス件数275,000件)  
(日本語トップページ637,128件、英語トップページ18,000件)

#### 3. デジタル化した情報の公開

HP等による公開件数 231件(デジタルギャラリー204件、HP27件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

館内の美術情報コーナーのデジタルギャラリーについて、平成14年度と同様のプログラムを継続して利用者に提供しており、利用者から好評を得ている。

また、文化庁が推進する文化遺産オンラインに対して、作品27点に関して基本情報・解説・画像などの情報を提供し、情報化推進に協力した。

ホームページでは、新たに「館内施設」、「よくある質問コーナー」、「オンライン蔵書目録(OPAC)」のコンテンツを追加し、そのコンテンツの中で研究資料センターの積極的な広報を図った。さらに、職員やインターンシップ及びボランティア募集等の要項の他、レストラン経営企画入札実施要項など美術館の事業案内情報についても掲載を開始し、ホームページの利便性向上とインターネットを活用した情報発信に努めたことにより、平成15年度も平成14年度実績を上回るホームページアクセス件数を得ることができた。今後も継続してホームページのコンテンツを工夫し活用を図りたい。

#### 【見直し又は改善を要する点】

作品管理用として構築した収蔵作品データベースが、操作性や機能上の問題で十分に活用されず、代わりに複数のデータベースが個別に作成・維持されている。しかも各データベースはコンピューターのOSやアプリケーションのバージョンなど、異なるデジタル環境に依存しており、情報の共有化は困難な状況である。今後は、館内に散在するこれらのデータを一箇所に集約し、相互に比較した上で統合を図っていく必要がある。

【計画を達成するために障害となっている点】

収蔵作品のデジタル情報に関しては、当館は情報基盤を再整備する途上にある。そのため、ホームページ上の作品データ公開などへの拙速な取り組みは、目先の限定された目的にしか通用し得ない第三の閉じられたデータベースを無為に生み出してしまう危険をはらんでいる。これを回避するには、既存データの分析・統合を十分な手間をかけて綿密に行う必要があり、作品データの公開はこの前提が整った上で、はじめて真正面から取り組むことのできる高次元の課題であると考えます。

## (2) - 1 児童生徒を対象とした事業

### 中期計画

(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。

また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

### 実績

#### 1. Fun with Collection'03「ココロのマド - 絵のかたち」及び、関連プログラム 52回

##### ア. 「ココロのマド - 絵のかたち」

(協力：西洋美術振興財団)

開催期間

平成15年7月1日(火)～8月31日(日)(66日間)(開催場所：本館、新館)

参加者数

Fun with Collectionは、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず、常設展の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、参加者数という計上は行っていない。

担当した研究員数 3人

事業内容

テーマは絵画作品の形態である。国立西洋美術館の所蔵作品を中心に、一般的な矩形ではなく、縦横の比率が大きく異なる矩形と矩形以外の形態に注目し、14点の作品を、<王冠型>、<アーチ形>、<横並び長四角形>、<円形>、<楕円形>、<縦長四角形>、<不定形(その他の形)>に分類して常設展示室に展示した。また、解説カード(展覧会説明1枚、作品解説7枚を展示室に用意。観覧者は自由にカードを集める事ができる。)や、絵の形や時間・空間の様々な表現について、触って楽しめるハンズ・オンの資料やパズル等も用意した。絵画の形態と、こうした表現の関わりに注目し、カードを集めたり、資料を使いながら展示を楽しむことができるプログラムである。

##### イ. 創作・体験プログラム「体験 東西の絵のかたち」

開催期間

平成15年7月26日(土) 13:00～16:00

参加者数 13名

担当した研究員数 4人

事業内容

国立西洋美術館と東京国立博物館で、いろいろな形をしている絵を探す。日本の絵については、それぞれの形にあった絵の楽しみ方を体験するプログラム。(対象=小学校4年生以上)

##### ウ. 創作・体験プログラム「タイムトラベラー」

開催期間

平成15年8月6日(水)、7日(木) 10:00～17:00

参加者数 8名

担当した研究員数 3人

事業内容

いくつかの時間や空間をまたいだ絵を、世界に2つとない自分だけの形の中に描いてみるプログラム。(対象=小学校5年生以上)

エ. 創作・体験プログラム「幻視写真」 講師=伊藤義彦(写真家)

開催期間

平成15年8月2日(土)、9日(土)、10日(日) 10:00~17:00

参加者数 4名

担当した研究員数 4人

事業内容

講師独自の手法を使って、複数の時間を持つ白日夢のような写真を作ってみるプログラム。(対象=中学生以上)

オ. 創作・体験プログラム「マンガのコマで美術を遊ぶ」 講師=夏目房之介(マンガ・コラムニスト)

開催期間

平成15年8月16日(土)、17日(日) 10:00~17:00

参加者数 14名

担当した研究員数 4人

事業内容

マンガのコマの機能について、レクチャーを聞いたあと、コマを使って絵画作品を新たな時間と空間の世界に再生をさせてみるプログラム。(対象=高校生以上)

カ. レクチャー&ディスカッション「絵画の矩形と近代の思考」 講師=高山宏(東京都立大学教授)

開催期間

平成15年8月24日(日) 13:00~16:00

参加者数 27名

担当した研究員数 4人

事業内容

「矩形の絵画が一般的になったのはなぜか」、そして、「絵画を矩形と考える思考は、我々の認識にどのような影響を及ぼしているのだろうか」という問題についてレクチャーを聴いた後、ディスカッションを行った。(対象=高校生以上)

キ. スクール・ギャラリートーク

実施回数46回(小学校:15、中学校24、高等学校:6、小学校PTA:1)

開催期間

「ココロのマド-絵のかたち」会期中の火曜日~金曜日、9:30~15:00(要予約)

ただし、平成15年8月6日、7日を除く。

参加者数 891名

担当した研究員数 3人

事業内容

小・中・高等学校の団体を対象に、絵画の形態と描かれたテーマや構図・構成の表現について、ギャラリートークで作品を見ながら話をした。(所要時間およそ40分)

2. ファミリープログラム 4回

ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像「ぼくの、わたしの大切な物」

開催期間

平成16年3月20日(土)

10:00~12:00(1回目) 27人

13:00~15:00(2回目) 20人

平成16年3月21日(日)

10:00~12:00(3回目) 27人

13:00~15:00(4回目) 24人

参加者数 98名

担当した研究員数 3人

事業内容

小・中学生とその家族を対象に実施。展覧会の作品を見た後に、大切な人や物への思いを、短い言葉や絵に表してみる。大切な人や物への思いを、短い言葉や絵として表現を試みるプログラム。

3. 先生(小・中・高等学校教員)のための観賞プログラム 4回

ア. 「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」観賞プログラム

開催期間

平成15年8月1日(金) 17:00~

参加者数 7名

担当した研究員数 3人

事業内容

「教員を対象とした活動」として、企画展開催時に教員を対象とする観賞プログラムを行っている。日頃、多忙な教員に、展覧会を楽しんでもらうことが目的であり、展覧会の趣旨や作品について説明した後、自由に展覧会を観賞していただいた。

イ. 「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」観賞プログラム

開催期間

平成15年10月17日(金) 18:00~

参加者数 54名

担当した研究員数 3人

事業内容 同上。

ウ. 「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」観賞プログラム

開催期間

平成16年3月19日(金) 18:00~

参加者数 25名

担当した研究員数 3人

事業内容 同上。

エ. Fun with Collection'03「ココロのマド - 絵のかたち」趣旨説明会

開催期間

平成15年7月4日(金) 18:00~20:00

参加者数 58名

担当した研究員数 3人

事業内容

講堂で、Fun with Collection'03「ココロのマド - 絵のかたち」の趣旨、及びスクール・ギャラリートークの事業について説明の後、常設展示室で該当作品の確認をし、質疑応答を行った。

4. 教員研修会 5回

開催期間

平成15年7月25日(金)、7月29日(火)、7月31日(木)、8月22日(金)、8月27日(水)

参加者数 102名

担当した研究員数 2人

事業内容

完全学校週5日制の趣旨に沿い、小・中学校の教員を対象とした美術館活用のための研修会を実施。常設展ガイダンス、ディスカッション、ギャラリートークなどの研修を行った。

5. 教員夏季研修 1回

開催期間

平成15年8月25日(月) 10:00~18:00

参加者数 26名

担当した研究員数 4人

事業内容

完全学校週5日制の趣旨に沿い、小・中学校の教員を対象とした美術館活用のための研修会を実施。国立西洋美術館の教育プログラム趣旨説明、ギャラリートーク体験、ディスカッション、学校における鑑賞授業事例発表、美術館訪問プログラムのシミュレーション、常設展示観覧、プログラム作成、プレゼンテーションを行った。

6. 団体訪問者(学校・団体)への解説 35回

実施期間 随時

実施場所 講堂、常設展示室、その他

利用者数 35校 1,533人

担当した研究員数 2人

事業内容

要請のあった教育関係団体に個別に対応し、コレクション、美術館や学芸員の仕事などの解説を行った。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

児童生徒を対象とした活動は、平成14年度と同様に下記の項目を実施した。

- 1)Fun with Collection(所蔵作品を中心としたプログラム)
- 2)学校の教員を対象とする観賞プログラムおよび研修
- 3)特別展ごとのジュニアパスポート
- 4)美術館訪問への対応

1)Fun with Collectionに際して実施されるスクール・ギャラリートークは、毎年実施してきた継続の効果が表れ、参加学校・団体にリピーターが多くなってきた。自然な形で学校との連携が整いつつあることの現れと考える。また、4)美術館訪問は、通年にわたって随時訪問団体の要望に対応しているものであるが、人員不足のため制度化されたプログラムとしては実施できないしているが、可能な限り対応してきたことの結果として、口コミでの拡大と

リピーターが増加してきている。

3)学校の教員を対象とする観賞プログラム及び研修については、特に平成15年度は夏期に複数回にわたり、半日あるいは1日の教員研修を実施した。これは、教育改革に伴う教員の研修制度の見直しと関連して、教員側からの要望が多くあって行われたものである。そのうちの一つは、東京都図画工作研究会と武蔵野市立小中学校教育研究会と共同で、試行として1日の研修会を企画・実施した。美術館側の一方的な研修ではなく、教員と協力して研修自体を企画することの意義は大きく、今後の参考となる研修会となった。

**【見直し又は改善を要する点】**

2)の教員研修については、将来的に発展させていく必要のある分野ではあるが、平成15年度のように、研修の依頼すべてに個別に対応することは不可能であり、回数を限定したプログラムとして独立させ、応募制にすることを考える必要がある。

また、4)美術館訪問についても、ギャラリートークを希望する団体については、ボランティアによるトークを現在検討中である（詳細はボランティアの項目参照）。

## (2) - 2 講演会等の事業

### 中期計画

- (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。  
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。  
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

### 実績

#### 1. 企画展における講演会 11回(年度計画記載回数:各企画展2~3回)

参加者総数 1,072人(平成12年度実績 770人)

##### ア.「織りだされた絵画」 2回

開催期間 2日間

平成15年4月5日(土) 14:00~15:30 参加者数70人

「タピスリーの保存と修復 - 《姉たちに贈り物をするプシュケ》を中心に」

講師:石井 美恵(染織品保存修復師)

平成15年5月10日(土) 14:00~15:30 参加者数150人

「絵画と工芸の間で - ヨーロッパのタピスリー芸術」

講師:高橋 明也(国立西洋美術館主任研究官)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 220人

担当した研究員数 4人

事業内容

企画展示会の展示作品を中心に、その展示会を理解する上で欠かすことのできない、重要な歴史・文化・知識についての講演会を開催した。

アンケート結果(回答数82件)

- ・大変良い48.8%(40件)・良い35.4%(29件)・あまり良くない4.9%(4件)
- ・良くなかった1.1%(1件)・無回答9.8%(8件)

##### イ.「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」 4回

開催期間 4日間

平成15年6月24日(火) 14:00~15:30 参加者数75人

「ルートヴィヒ・リヒターの絵画における準備/素描」(同時通訳)

講師:ペトラ・クールマン=ホディック(ドレスデン版画素描館学芸員)

平成15年7月20日(日) 14:00~15:30 参加者数90人

「C.D.フリードリヒの素描 - 写生、構想、作品」

講師:大原 まゆみ(明治学院大学教授)

平成15年8月10日(日) 14:00~15:30 参加者数60人

「ナザレ派と美術アカデミー」

講師:尾関 幸(東京大学助手)

平成15年8月17日(日) 14:00~15:30 参加者数75人

「C.G.カールスとゲーテ - 風景について」

講師:眞岩 啓子(早稲田大学非常勤講師)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 300人

担当した研究員数 7人

事業内容 同上。

アンケート結果(回答数46件)

- ・大変良い54.3%(25件)・良い39.1%(18件)・あまり良くない4.3%(2件)
- ・良くなかった0%(0件)・無回答2.3%(1件)

ウ.「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」 2回

開催期間 2日間

平成15年10月11日(土)14:00~15:30 参加者数125人

「わたしのレンブラント」

講師:中林 忠良(東京芸術大学教授・版画家)

平成15年11月8日(土)14:00~15:30 参加者数120人

「物語画家レンブラント」

講師:幸福 輝(国立西洋美術館学芸課長)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 245人

担当した研究員数 4人

事業内容 同上。

アンケート結果(回答数89件)

- ・大変良い43.8%(39件)・良い44.9%(40件)・あまり良くない3.4%(3件)
- ・良くなかった1.1%(1件)・無回答6.8%(6件)

エ.「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」 2回

(本展の講演会は、平成16年度にも1回実施を予定している)

開催期間 2日間

平成16年3月2日(火)13:30~15:00 参加者数103人

「VIXERVNT OMNES 彼らはみんな生きた」(同時通訳)

講師:パオロ・リヴェラーニ(ヴァチカン美術館古典考古学部長)

高梨 光正(国立西洋美術館研究員)

日向 太郎(国立西洋美術館客員研究員)

筒井 賢治(東京大学教養学部非常勤講師・文学博士)

平成16年3月13日(土)14:00~15:30 参加者数79人

「恋愛を指南するローマの詩人--オウィディウスを中心に--」

講師:日向 太郎(国立西洋美術館客員研究員)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 182人

担当した研究員数 7人

事業内容 同上。

オ.「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」関連記念講演会「文明の発祥地:古代ローマ帝国と地中海」(主催:国立西洋美術館、NHK、イタリア文化会館(東京)、後援:イタ

リア大使館、協賛：鹿島美術財団) 1回

開催期間 1日間

平成16年3月27日(土)13:00~ 参加者数125人

[基調講演]

「トラヤヌス帝と彼のローマにおける公共記念建造物」

講師：エウジェニオ・ラ・ロッカ(ローマ考古財監督局総監、ローマ”ラ・サピエンツァ”大学教授)

「セプティミウス・セウェルス帝とその妻、そして息子たち：ローマ帝国と属州レプティス・マグナの間のイメージと政治的プロパガンダ」

講師：ルイーザ・ムツ(ローマ第三大学教授)

[コメント]

日高 健一郎(筑波大学芸術学系建築・デザイン教授)

芳賀 京子(日本学術振興会特別研究員、東京大学文学部非常勤講師)

モデレーター：小佐野 重利(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 125人

担当した研究員数 8人

事業内容 同上。

## 2. スライドトーク等 10回(年度計画記載回数：各企画展3~5回)

参加者総数 740人(平成12年度実績700人)

### ア. 「織りだされた絵画」ギャラリートーク 2回

(本展のギャラリートークは、この他に平成14年度に1回実施している)

開催期間 平成15年4月4日(金)(40人) 5月16日(金)(40人) (2日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 80人

担当した研究員数 4人

事業内容 タピスリーと絵画の関係について、染織技法の話も交えながら、ギャラリーで解説を行った。

アンケート結果(回答数26件)

・大変良い61.5%(16件)・良い23.1%(6件)・あまり良くない3.8%(1件)

・良くない0%(0件)・無回答11.6%(3件)

### イ. 「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」ギャラリートーク 2回

開催期間 平成15年7月18日(金)(14人) 8月15日(金)(20人) (2日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 34人

担当した研究員数 3人

事業内容 展覧会の見所、主な作品について、夜間開館を行っている金曜日にギャラリーで解説を行った。

アンケート結果(回答数19件)

・大変良い68.4%(13件)・良い31.6%(6件)・あまり良くない0%(0件)

・良くない0%(0件)

### ウ. 「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」スライドトーク 5回

開催期間 平成15年9月26日(金)(70人) 10月10日(金)(95人) 10月24日(金)(135人) 11月7日(金)(120人) 11月21日(金)(172人) (5日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 592人

担当した研究員数 3人

事業内容 展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている金曜日に講堂でスライドトークを行った。

アンケート結果(回答数84件)

- ・大変良い28.6%(24件)・良い54.8%(46件)・あまり良くない11.9%(10件)
- ・良くない0%(0件)・無回答4.7%(4件)

エ.「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」スライドトーク 1回  
(本展のスライドトークは、平成16年度にも5回実施を予定している)

開催期間 平成16年3月12日(金)(34人) (1日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 34人

担当した研究員数 3人

事業内容 展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている金曜日に講堂でスライドトークを行った。

3. イヤホンガイドの実施(共催展2回、自主企画展1回実施)

利用者総数 43,228人

ア.「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」

実施期間 平成15年6月24日(火)~8月24日(日)(54日間)

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 2,794人(大人2,157人、学生637人)

担当した研究員数 1人

事業内容

観覧者が展覧会の趣旨、作家、作品についてさらに理解を深めることを支援し、楽しむことができるようイヤホンガイド解説を実施。

アンケート結果(回答数25件)

- ・大変わかりやすかった44.0%(11件)・わかりやすかった36.0%(9件)
- ・まあまあだった16.0%(4件)・ややわかりにくかった0%(0件)・わかりにくかった0%(0件)
- ・無回答4.0%(1件)

イ.「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」

実施期間 平成15年9月13日(土)~平成15年12月14日(日)(80日間)

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 36,001人(大人33,166人、学生2,835人)

担当した研究員数 1人

事業内容 同上。

アンケート結果(回答数55件)

- ・大変わかりやすかった47.3%(26件)・わかりやすかった32.7%(18件)
- ・まあまあだった20.0%(11件)・ややわかりにくかった0%(0件)・わかりにくかった0%(0件)

ウ.「ヴァチカン美術館所蔵古代彫刻 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」

実施期間 平成16年3月2日(火)~平成16年5月30日(日)(79日間)

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 4,433人(大人4,066人、学生367人)

担当した研究員数 1人

事業内容 同上。

4. 展覧会に関連する音楽プログラム(年度計画記載回数:1回)

「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」レクチャー・コンサート 1回

開催期間 平成15年7月11日(金)17:00~19:00 (1日)

「シュノル父子とメンデルスゾーン」

企画・トーク:瀧井 敬子(東京芸術大学演奏芸術センター)

演奏:浦川 宜也(ヴァイオリン)他

照明:牛場 賢二

開催場所 企画展示館展覧会会場入口ロビー(地下2階)

参加者数 100人(平成12年度実績人数は、上記「2.スライドトーク等700人」に含まれる)

担当した研究員数 4人

事業内容 現在では美術と音楽という異なるジャンルとして観賞されている二つの芸術を、再度関連づけることによって美術の楽しみ方に広がりを持たせることを目的としたコンサート。

5. 国内外のレンブラント研究者並びに、17世紀オランダ絵画研究者によるシンポジウム 1回(年度計画記載回数:1回)

開催期間 平成15年9月13日(土)13:00~17:00、9月14日(日)10:00~18:00 (2日)

国際シンポジウム「レンブラントと17世紀オランダ物語画」

企画構成:国立西洋美術館 幸福 輝、目白大学/国立西洋美術館客員研究員 小林 頼子

発表者:ヤン・ケルヒ(ベルリン国立絵画館) 幸福 輝(国立西洋美術館) ターコ・ディビッツ(アムステルダム国立美術館) フォルカー・マヌート(ネイメーヘン大学) ジョナサン・ピッケル(アムステルダム国立美術館) デイヴィッド・デ・ウィット(クウィーンズ大学アグネス・エサリングトン・アート・センター) 小林 頼子(目白大学)、尾崎 彰宏(東北大学) 高橋 達史(青山学院大学) マルテン・ヤン・ボク(アムステルダム大学) 中村 俊春(京都大学)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 101人

担当した研究員数 11人

事業内容 「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」展を主導した日本、オランダ、ドイツ、各美術館のキュレーターに加え、各国のレンブラント研究者、あるいは17世紀オランダ絵画の研究者を招聘し、また美術史学会の全面的協力を得てシンポジウムを開催した。11の発表と活発な質疑応答が行われ、きわめて有意義であった。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度も例年同様に、特別展ごとに複数の講演会、スライドトークあるいはギャラリートークを実施した。「レンブラントとレンブラント派」展では、美術史学会との協力のもとに、内外の研究者を多数招聘してシンポジウムを開催した。また、東京芸術大学音楽学部演奏芸術センターの協力によるコンサートを、「ドイツ・ロマン主義の風景素描展」に関連して開催し、定員は100名であったが、それを超えて立見の入場者も多く、充実した内容で好評を博した。

#### 【見直し又は改善を要する点】

現在、講演会の内容は、一般（専門家ではない人々）を対象として実施されているが、当館の利用者の中には、美術の専門家ではなくともかなりの知識を持つ人々も多く、切り口やテーマのヴァリエーションだけでなく、対象（初心者から専門家まで）のヴァリエーションも考慮した企画を検討する必要があると考える。

### (3) - 1 研修の取組

#### 中期計画

- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。

#### 実 績

1. 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムを実施
  - ア. 第11回美術館・歴史博物館学芸員専門研修会（第2年次）
    - 研修期間 平成16年1月26日～1月30日（5日間）
    - 開催場所 企画展示館 講堂及び展示ロビー
    - 参加者数 58人（平成12年度実績無し）
    - 担当した研究員数 1人
    - 事業内容 公私立の美術館・歴史博物館の学芸員や学芸業務を担当する専門職員等を対象に、学芸業務に関する専門的知識・技能の向上を図る研修を行った。なお、本研修会は文化庁と共催した。
2. 他の機関が実施する研修への協力を実施
  - ア. 平成15年度博物館職員講習（主催：文部科学省、国立教育政策研究所）
    - 研修期間 平成15年6月20日（金）（1日間）
    - 開催場所 企画展示館 講堂
    - 参加者数 50人
    - 担当した研究員数 3人
    - 事業内容 国立西洋美術館において、西洋美術史の現地講習を実施した。（講師：主任研究官 田邊 幹之助、主任研究官 河口 公夫、主任研究官 寺島 洋子）
  - イ. 平成15年度文化財行政講座（主催：文化庁）
    - 研修期間 平成15年11月14日（金）（1日間）
    - 開催場所 企画展示館 講堂
    - 参加者数 50人
    - 担当した研究員数 1人
    - 事業内容 当館職員による施設見学及び、運営に関する概要説明等を実施した。
  - ウ. 平成15年度国際交流基金文化人短期招へい事業
    - 研修期間 平成15年10月1日（水）、平成15年10月2日（水）（2日間）
    - 開催場所 企画展示館 館長室
    - 参加者数 2人
    - 担当した研究員数 1人
    - 事業内容 ポーランド ワルシャワ王宮館長 ロッテルムンド氏（10月1日）、ロシア連邦 国立特別保護区歴史文化博物館「モスクワ・クレムリン」館長 ガガリーナ、エレナ・ユーリエヴナ氏（10月2日）への招へい事業に協力し、美術館の視察及び概要説明後、関係者の情報交換・意見交換を行い、ネットワークの構築に努めた。
  - エ. 韓国国立現代美術館海外研修

研修期間 平成15年10月28日(火)(1日間)

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 会議室

参加者数 7人

担当した研究員数 1人

事業内容 国際美術文化理解増進、業務能力向上、専心海外美術館の観覧施設、運営実態及び関連資料収集を目的とする海外研修会へ協力し、説明・解説等の支援を行うとともに、情報交換・意見交換を図り、人的ネットワークの形成に努めた。

オ. 東京商工会議所経済資料センター内専門図書館協議会関東地区協議会

「国立西洋美術館研究資料センター見学会」

研修期間 平成15年12月3日(水)(1日間)

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター

参加者数 46人

担当した研究員数 1人

事業内容 当館施設の見学会へ協力し、説明・解説等の支援を行うとともに、情報交換・意見交換を図り、人的ネットワークの形成に努めた。

カ. 全国美術館会議第19回学芸員研修会「教育普及再考 - 美術館のミッションと利用者をつなぐために」(主催: 全国美術館会議、企画: 全国美術館会議<教育普及ワーキング・グループ>)

研修期間 前期: 平成15年12月17日(水)、18日(木)

後期: 平成16年2月4日(水)、5日(木)、6日(金)(5日間)

開催場所 企画展示館 講堂

参加者数 148人

担当した研究員数 2人

事業内容 研修会へ協力し、講義等の支援を行うとともに、幅広い交流による情報交換・意見交換を推進し、人的ネットワークの形成に努めた。

キ. 台湾嘉義・南華大学海外博物館見学会

研修期間 平成16年2月1日(日)(1日間)

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 会議室

参加者数 21人

担当した研究員数 1人

事業内容 台湾嘉義・南華大学、美学興芸術管理研究所修士課程学生による、展覧会計画、独立行政法人化以後の経営方針、未来発展等問題の調査を目的とする研修会へ協力し、説明・解説等の支援を行った。

ク. 韓国文化放送(KBC)博物館視察

研修期間 平成16年2月20日(金)(1日間)

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 会議室

参加者数 12人

担当した研究員数 1人

事業内容 韓国文化放送(KBC)の各地方の事業部長による、独立行政法人化及び展覧会企画についての調査を目的とする研修会へ協力し、説明・解説等の支援を行った。

ケ. 外務省オピニオンリーダー招聘事業

研修期間 平成16年3月5日(金)(1日間)

開催場所 企画展示館 館長室

参加者数 1人

担当した研究員数 1人

事業内容 外務省が実施するノルウェー国立美術館館長 アニケン・トューエ女史への招へい事業に協力し、美術館視察及び概要説明後、関係者の情報交換・意見交換を行い、ネットワークの構築を図った。

コ 美術図書館関係者懇談会 - ニューヨーク大学美術研究所図書館長シャロン・チッカゼフ氏を囲んで - (主催: アート・ドキュメンテーション研究会)

研修期間 平成16年3月16日(火)(1日間)

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター

参加者数 20人

担当した研究員数 1人

事業内容 ニューヨーク大学美術研究所図書館長を迎えての懇談会に協力し、国内の美術図書館関係者と情報交換・意見交換を行い、ネットワークの構築を図った。

サ. 財団法人交流協会 文化人招聘事業

研修期間 平成16年3月22日(月)(1日間)

開催場所 企画展示館 館長室

参加者数 1人

担当した研究員数 1人

事業内容 財団法人交流協会が実施する台湾国立歴史博物館館長 黄光男氏の招へい事業に協力し、美術館視察、概要説明及び独立行政法人化についての質疑応答の後、関係者の情報交換・意見交換を行い、ネットワークの構築を行った。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度は、平成14年度に第1年次を終了した「美術館・歴史博物館学芸員専門研修会」の第2年次目を開催し、多くの参加者から有意義だったとの好評を得た。また、他の機関が実施する研修等の事業への協力にも積極的に取り組み、着実に成果を上げた。

### 【見直し又は改善を要する点】

今後も研修会への協力・支援を行い、情報交換、人的ネットワークの形成を推進し、美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムの検討と実施に努めたい。

## (3) - 2 大学等との連携

### 実績

1. 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力 2名  
研修期間 平成15年4月1日～平成16年3月31日  
開催場所 国立西洋美術館  
参加者数2人(平成12年度実績無し) 平成14年度からの新規事業  
担当した研究員数 2人  
事業内容 人文社会系研究科文化資源学研究専攻の一層の充実と当該研究課の学生の資質の向上を図り、相互の教育・研究の交流を促進し、もって学術の発展に寄与することを目的として実施した。受け入れた学生については、当館のインターンシップ制度の下に置いて指導を行った。
2. インターンシップ制度の実施  
研修期間 平成15年4月1日～平成16年3月31日(原則年度中に3ヶ月以上、6ヶ月以内の期間)  
開催場所 国立西洋美術館  
参加者数6人(平成12年度実績無し) 平成14年度からの新規事業  
担当した研究員数 2人  
事業内容 西洋美術に関心を持つ人材の専門的知識と技術の向上を図り、当館の活動をより広く理解してもらうこと、並びに教育機能の充実を図ることを目的として美術館における実務研修を実施した。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度は、第2回目のインターンとして、6名を教育普及部門で受け入れ、うち2名は東京大学文化資源学研究室との連携による大学院生であり、単位を認定した。活動内容は、前期を昨年の「びじゅつーる」(ファミリー向け観賞用教材)の評価・改善と、夏のFun with Collectionの補助、後期を新たな「びじゅつーる」の開発とした。後期の「びじゅつーる」開発では、平成14年度より多くの時間をかけたので、より充実した試作品のための利用調査を実施することができた。

#### 【見直し又は改善を要する点】

平成15年度の教育普及インターンは、通年のプログラムとして、より時間をかけることで余裕のある活動を目指したが、前期についてはいささか多めの活動内容となってしまった。また、インターンシップの内容(実務の種類、研修の時間)受け入れ人数は、この制度の目的と合わせ、未だ検討段階にあり、平成15年度の反省に立って平成16年度は異なる試みを実施する予定である。

### (3) - 3 ボランティアの活用状況

#### 中期計画

(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。

#### 実績

1. 登録人数 現在は登録無し
2. 活動内容 以前より継続して導入に向けての検討を行ってきたが、平成15年度はその検討結果を踏まえてボランティア事業を具体化し、平成16年度からの実施に向けて実施要綱、選考要領を制定した他、ボランティア・コーディネーターを新規採用するなどして準備を進めた。
3. 今後の取り組み 平成16年度4月から募集を開始し、必要な研修を実施した後、11月を目処に活動を開始することとした。

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取り組み】

平成14年度、ボランティア検討委員会において、必要性が認められたインフォメーション・ボランティアについては、他館の事例調査の結果、当館では現実性に乏しいとの判断を下した。そして、再度、ボランティア、美術館、利用者すべてにとって意味のある活動内容を検討した結果、教育普及活動の中の、ファミリー向け観賞用教材「びじゅつーる」の貸与管理とスクール・ギャラリートークが候補にあがった。学校からはこれまでも、一年を通じてギャラリートークを提供して欲しいという要望が寄せられていたが、人員不足のために対応できない状況にあった。また、平成14年度から始めた「びじゅつーる」についても、貸与業務の人員が不足していた。そこで、美術館の教育普及活動の改善と充実のため、この2つをボランティアの活動とすることに決定し、平成16年度から募集を開始することとなった。また、ボランティア導入のために、ボランティア・コーディネーターを非常勤職員として1名採用した。

##### 【見直し又は改善を要する点】

長年に渡る懸案となっていたボランティア事業に、平成16年度から開始の目処が立ったことは大きな進展であった。今後も引き続き、ボランティア等として大学生・大学院生も含めた幅広い活用方法についての検討を続けていく必要がある。

## (4) 渉外活動

### 中期計画

(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

### 実績

1. 展覧会を開催するにあたり、新聞社、企業、メセナ財団より協力及び支援を得て、企画・運営、渉外、利用者サービス等の充実を図った。

全日本空輸株式会社より「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」を開催するにあたり、作品輸送及びクーリエ・展覧会関係者国際線航空券の割引協力を得た。

(財)東芝国際交流財団より「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」を開催するにあたり、運営費の助成を得た。これにより作品リスト等の広報印刷物を作成し、入場者へ無料配布した。

(財)ポーラ美術振興財団より、国際シンポジウム「レンブラントと17世紀オランダ物語画」を開催するにあたり、運営費の助成を得た。

(財)西洋美術振興財団より、講演会等教育普及事業に関する助成を得た。
2. 企業等との連携を進め、美術館・展覧会情報等の掲載及び割引入場券発券等の幅広い広報活動を図った。

上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」に加入し、ポスター掲示、チラシ・割引券等の配布、広報誌「うえの」(発行：上野のれん会)への展覧会情報掲載など、上野のれん会加盟店を通じた幅広い広報活動を実施した。

上野 松坂屋が発行する「Weekly Matsuzakaya」に展覧会情報を掲載した。

上野中央通り商店会「江戸開府400年記念、秋の芸術・文化まつり」事業と連携し、商店会で配布されるスクラッチカードに「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」展の割引券を添付した。

テクノシステム(株)が全国の幼・小・中・高校、及び文化施設へ向けに配信するメールマガジン「校外学習通信」へ美術館及び展覧会情報等の掲載を開始した。

JR東日本「平成16年度上野周辺散策マップ」への美術館情報等掲載に向けて準備した。

営団地下鉄と(株)NKBが開設する、東京の魅力案内するWebサイト「Let's Enjoy TOKYO」への美術館及び展覧会情報等掲載に向けて準備した。

東京の美術館・博物館等31館で実施する共通入館券(東京・ミュージアムぐるっとパス)実行委員会に参加し、常設展共通入場券を発行した。

東京都が実施する外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」へ参加し、常設展の割引入場引換券を掲載した。

「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」において、「東郷青児美術館「ゴッホと花 - ひまわり」をめぐって -」展と連携し、とくまるチケット及び2館共通割引入館券の発行を実施した。

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」において、東京国立博物館「空海と高野山」展と連携し、2館共通割引入館券の発行を実施した。

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」において、東京国立博物館「空海と高野山」展と連動したスタンプラリーを実施した。
3. 地域との連携を進め、他の機関・団体等と共同・連携し、幅広い広報活動を行った。

東京都観光部、上野公園内施設(東京国立博物館、国立科学博物館、旧東京音楽学校奏楽堂、東京文化財研究所、国際子ども図書館、寛永寺、不忍弁天堂)と連携したライトアップ事業へ参加し、上野公園内全体の

イメージアップを図った。

台東区教育委員会を通じて、台東区内の小中学校へ展覧会情報と観覧料金の無料化PRを実施。

東京都「上野地区観光まちづくり検討会」、台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」、「art-Link上野-谷中2003」へ参加し、地域との連携を推進。

平成15年5月18日「国際博物館の日」に、上野地区内の美術館・博物館、上野動物園、上野のれん会、台東区と共同で普及広報イベントを実施。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度は、企業や地域の他機関・団体との連携による活動に力を入れ、幅広い活動について創意工夫したことにより、多方面に渡る連携先との相互支援関係が得られたものとする。

#### 【見直し又は改善を要する点】

今後もさらに積極的な外部に向かった渉外活動（支援、連携、協力）を推し進め、企業や、地域の他機関・団体と一体となった連携活動を推進し、美術館の運営並びに観光や地域の振興にも寄与することが出来るような方策の検討に努めたい。

## 5 . その他の入館者サービス

### 中期計画

- (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。
- (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。
- (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。
- (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
- (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。
- (3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。

### 実 績

- 1 . 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1)-1
- |             |  |
|-------------|--|
| 障害者トイレ      | 5 箇所 (本館 1 階 1 箇所、企画展示館地下 1 階 1 箇所、企画展示館地下 2 階 3 箇所) |
| 障害者エレベータ    | 4 基 (新館 1 基、企画展示館 3 基)                               |
| 段差解消 (スロープ) | 2 箇所 (正門、本館 19 世紀ホール)                                |
| 風除扉の自動扉化    | 6 箇所 (本館 2 箇所、新館 4 箇所)                               |
| 貸出用車椅子      | 10 台 (1 階インフォメーション)                                  |
| 貸出用杖        | 10 本 (1 階インフォメーション)                                  |
- 盲導犬・身体障害者補助犬を伴う利用可能  
国立西洋美術館ホームページに視覚障害者向けの音声案内機能を整備
- 2 . 観覧環境の充実 (1)-2、(1)-4
- 自主企画展・共催展において音声ガイドの実施。
- 「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」  
「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」  
「ヴァチカン美術館所蔵古代彫刻 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」
- 総貸出件数 43, 228 件  
展示解説ビデオを上映。
- 「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」(企画展示館展示ロビー)  
「ヴァチカン美術館所蔵古代彫刻 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」(企画展示館展示ロビー)  
「前庭彫刻 免震化と修復」(新館 1 階休憩コーナー)
- ジュニアパスポート、作品リスト及び、ワークシートを作成し、無料配布を実施。
- ア . ジュニアパスポート (日本語版) 及び作品リスト (日本語版、英語版) 作成  
「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」  
「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」  
「ヴァチカン美術館所蔵古代彫刻 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」
- イ . 作品リスト (日本語版、作品名等英語併記) 作成  
「ジャック・カロ版画」展作品リスト 日本語版 (作品名等の英語表記あり)  
「ファウストとハムレット：ドラクロワ - ロマン派石版画の魅力」展作品リスト 日本語版 (作品名等の英語表記あり)
- ウ . ワークシート等の無料配布  
Fun With Collection'03 「ココロのマド - 絵のかたち」解説カード 8 種  
レクチャー・コンサートプログラム「シュノル父子とメンデルスゾーン」  
国立西洋美術館ガイド、展覧会案内チラシ、美術館情報等の広報印刷物を無料配布。  
国立西洋美術館ブリーフガイドを、より分かりやすい内容とするため、会場案内図及び美術館情報を見直し、

カラーを多用した印刷へ改版を行った。(日本語版、英語版、韓国語版、中国語版2種類)  
作品解説パネル、会場内サイン及び売札所の料金表示方法等を見直し、整備を実施。

『びじゅつあー 国立西洋美術館はじめてガイド』を平成15年度初めて作成し、会場内で無料配布。

### 3. 夜間開館等の実施状況 (1)-3

夜間開館実施状況

ア. 開催日数 50日

イ. 入館者数 19,981人(総入場者数662,854人、夜間開館入場率3.01%)

ウ. 実施日 毎週金曜日について、20時まで開館

小中学生の入場料の低廉化

小中学生入場料の無料化を、国立西洋美術館では平成14年4月1日からの実施日に先駆け、平成14年3月5日(「ブラド美術館展」開催日)から先行して実施した。

ア. 常設展及び自主企画展は年間を通じて観覧料金無料とした。

「常設展」

(自主企画展)「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」

イ. 共催展は、共催者の協力を得て観覧料金を無料とした。

「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」

「ヴァチカン美術館所蔵古代彫刻 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」

以外の入場者料金の取り組み

ア. 平成15年度から学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を図った。

・学生130円(団体70円) 大学生130円(団体70円)、高校生70円(団体40円)

イ. 自主企画展「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」については 入場料に割引料金を設定して割引券を発行し、料金の低廉化を図った。

・一般850円 800円、大学生450円 400円、高校生250円 200円

ウ. 「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」において「東郷青児美術館「ゴッホと花 - ひまわり」をめぐって - 」展と連携し、とくまるチケット及び2館共通割引入館券の発行を実施した。

・とくまるチケット 高校生以上1,000円(ただし、2名以上分を同時購入、前売券期間のみ販売)

・2館共通入館券 一般2,300円(1300+1000) 1,700円、大学生1,500円(900+600) 1,200円、  
高校生1,400円(800+600) 1,100円、65歳以上2,100円(1300+800) 1,600円

エ. 「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」において、東京国立博物館「空海と高野山」展と連携し、2館共通割引入館券の発行を実施した。

・2館共通入館券 一般2,600円(1300+1300) 2,000円、大学生1,800円(900+900) 1,400円、  
高校生1,600円(800+800) 1,200円

オ. 東京の美術館・博物館等31館で実施する共通入館券(東京・ミュージアムぐるっとパス)実行委員会に参加し、常設展共通入場券を発行した。

・ぐるっとパス 1,800円(参加施設31館の常設展に1ヶ月の間に各1回入場が可能)

カ. 東京都が実施する外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」へ参加し、常設展の割引入場引換券を掲載した。

・ウェルカムカード 一般420円 340円

キ. 常設展については毎月第2・第4土曜日及び、文化の日を無料観覧日としている。

(開催日数25日、入場者数13,124人)

その他の入館者サービス

ア. 館内の売札所において、自主企画展・共催展前売券を販売した。

イ. 自主企画展「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」において、前売券を東日本旅客鉄道、チケット・ぴあで販売した。

ウ. 展覧会の混雑時は、開館時間の延長や、開館時間を早めて対応している。

エ. 無料観覧券については、有効期限付きの券を発行し混雑の緩和に努めている。

オ. 年始の休館日数を短縮し、1月2日から開館した。

カ. ロダンの彫刻のある前庭及び、本館1階のレストラン、ミュージアムショップ、デジタルギャラリー、資料コーナーがあるスペースをフリーゾーンとしている。

### 4. アンケート調査(1)-3

調査期間 平成15年5月1日～4日(4日間)(織りだされた絵画)

平成15年8月14日～17日(4日間)(ドイツ・ロマン主義の風景素描)

平成15年11月6日～9日(4日間)(レンブラントとレンブラント派)

平成16年2月26日～29日(4日間)(常設展)

調査方法 各展覧会のアンケートを実施する際に鑑賞環境の満足度調査も併せて行っている。また、館内には常時アンケート箱を設置しており、入館者の意見(日本語・英語)を受け入れている。

アンケート回収数 1200件

アンケート結果

- ・大変わかりやすかった21.17%(254件)・わかりやすかった31.00%(372件)
- ・まあまあだった37.42%(449件)・ややわかりにくかった3.50%(42件)
- ・わかりにくかった3.58%(43件)・無回答3.33%(40件)

#### 5. 一般入館者等の要望の反映(2)

入館者へのサービスの質を一層高めることを目的に、入館者と直に接する受付・案内の職員、看手及び美術館の職員に対して接客についての研修及び普通救命講習を実施した。

ホームページ上での研究資料センターの扱いについて、これまで施設の中に含まれていたものを単独の項目としてメニュー・バーに出し、さらに蔵書検索システム(OPAC)をインターネット上で公開するなど、利用者の利便性向上を図った。

入館者の要望に応え、館内の売札所において自主企画展及び当館共催展の前売券販売を実施した。

#### 6. レストラン・ミュージアムショップの充実(3)

##### ア. レストラン

洋菓子・パンで人気が高い(株)アトリエリーブが新規にレストラン経営者として出店することとなった。ケーキの品揃えを充実し、質的にも向上を図った。

お客様の要望に応え、季節に応じたメニューの取り扱いを実施。(冬期のグラタンなど)

セットメニューを増やすなどして、利用しやすい料金設定に努めた。

お客様の要望に合わせたラストオーダー時間の延長をするなどして、サービスの向上に努めている。

レストランの禁煙化を実施。

##### イ. ミュージアムショップ

お客様の要望に応え、所蔵作品のオリジナル複製画(モネ「睡蓮」、ゴッホ「ばら」、セザンヌ「ジャ・ド・ブッフアの眺め」、ルノワール「帽子の女」)の受注販売を開始した。

絵葉書の品揃えを増やし、種類の入れ替えを行った。

書籍の充実を図り、子どもから大人や専門家まで対応が可能な幅広い品揃えになるよう努めた。

遠方のお客様にはカタログ等の通信販売にも対応するなどして、サービスの向上に努めている。

他の美術館ショップと共同して新しい商品開発を行った。(カレンダー)

年始の1月2日及び3日に、カレンダーの割引販売を実施した。

お客様が比較・選択しやすいように、売場のショーケースの内容を季節ごとに変えるなど、ディスプレイ方法の見直しに努めている。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

平成15年度も入館者アンケートの分析によるお客様からの要望への対応を重視し、館内サイン・看板等の整備計画及びバリアフリーの推進計画を検討し、将来的に企画展示館の入り口を自動ドア化する計画を策定した。その他にも鑑賞の理解を支援するジュニアパスポート及び『びじゅつあー 国立西洋美術館はじめてガイド』等の刊行、ホームページへのコンテンツの追加によるインターネットを活用したサービスの充実、受付・案内の職員、看手及び美術館の職員に対して接客研修及び普通救命講習を実施するなどして、入館者サービスの向上と強化に努めた。

また、業者等と連携してレストラン、ミュージアムショップの運営を常に見直し、メニュー、料金、品揃え等、お客様の利便性を第一に考えたサービスの提供と禁煙化の実施など、気軽に利用でき快適な空間となるよう館内環

境の整備に取り組んでいる。そして、平成15年度は入館者サービスの質をさらに向上させるべく、数社の参加によるレストラン経営の企画入札を実施した。審査の結果、洋菓子・パンで人気の高い(株)アトリエリーブが新規にレストラン経営者として出店することとなり、ケーキ等のデザート及び料理の素材の面で質の向上が図られた。

・接遇研修(講師:JALアカデミー) 平成15年12月22日 14:00~17:00

お客様中心のサービスへの気付き(愛される美術館・親しまれるスタッフであるために)

お客様の期待に応える接客サービス

言葉とコミュニケーション

お客様の期待に応える接客サービスの実践

サービス定着のための職場内コミュニケーション

・普通救命講習(上野消防署の救命課、指導官より受講) 平成15年11月25日 9:00~12:00

#### 【見直し又は改善を要する点】

インフォメーションでの対応や国立西洋美術館ブリーフガイド及びホームページについては、英語を中心に徐々に外国語への対応を図っているところではあるが、今後は広報印刷物や解説パネルについても外国語への対応を検討し、引き続き外国人にも親しまれるための改善に努力していく必要がある。